

截金ガラス

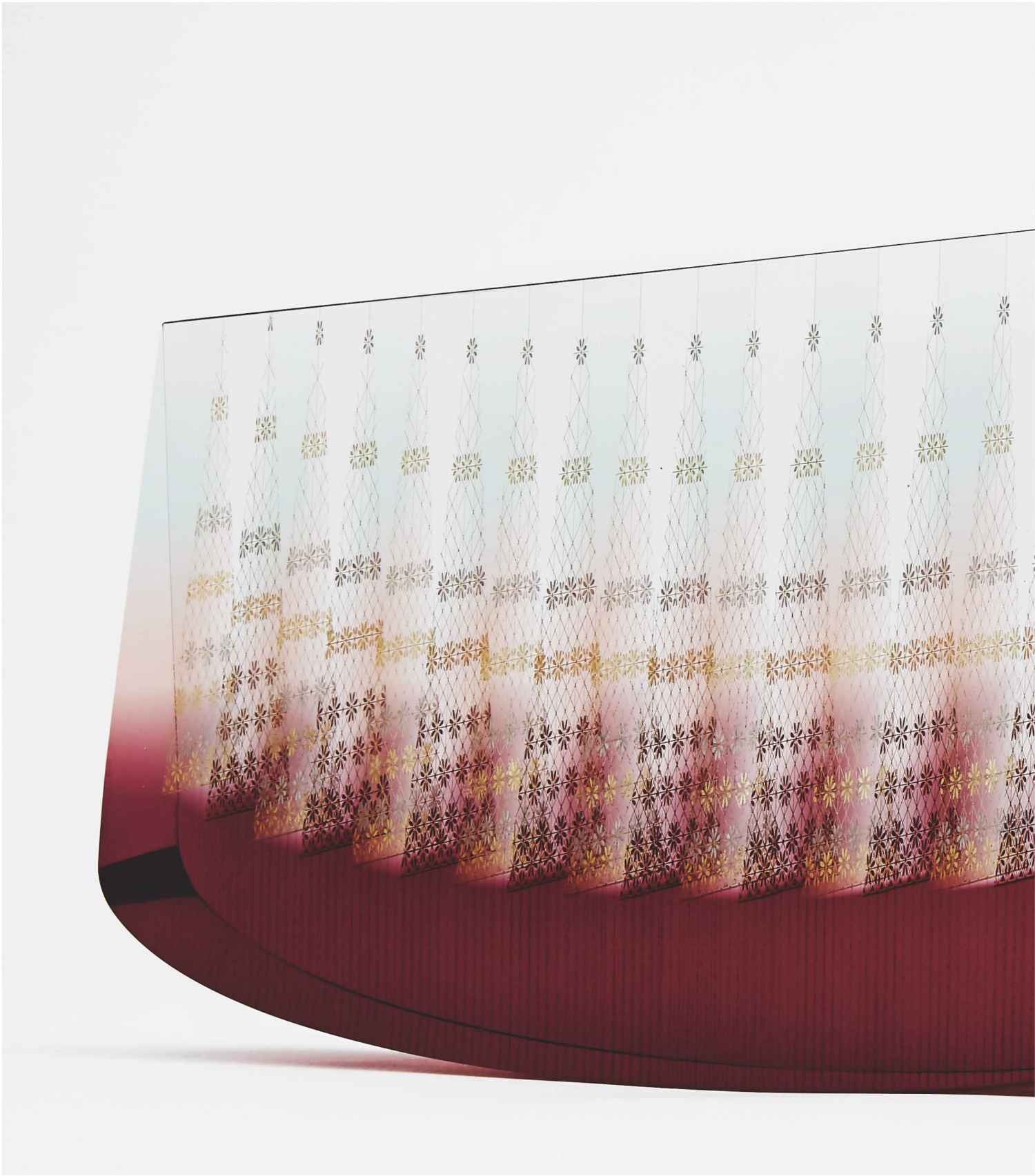
—齋王の旅—

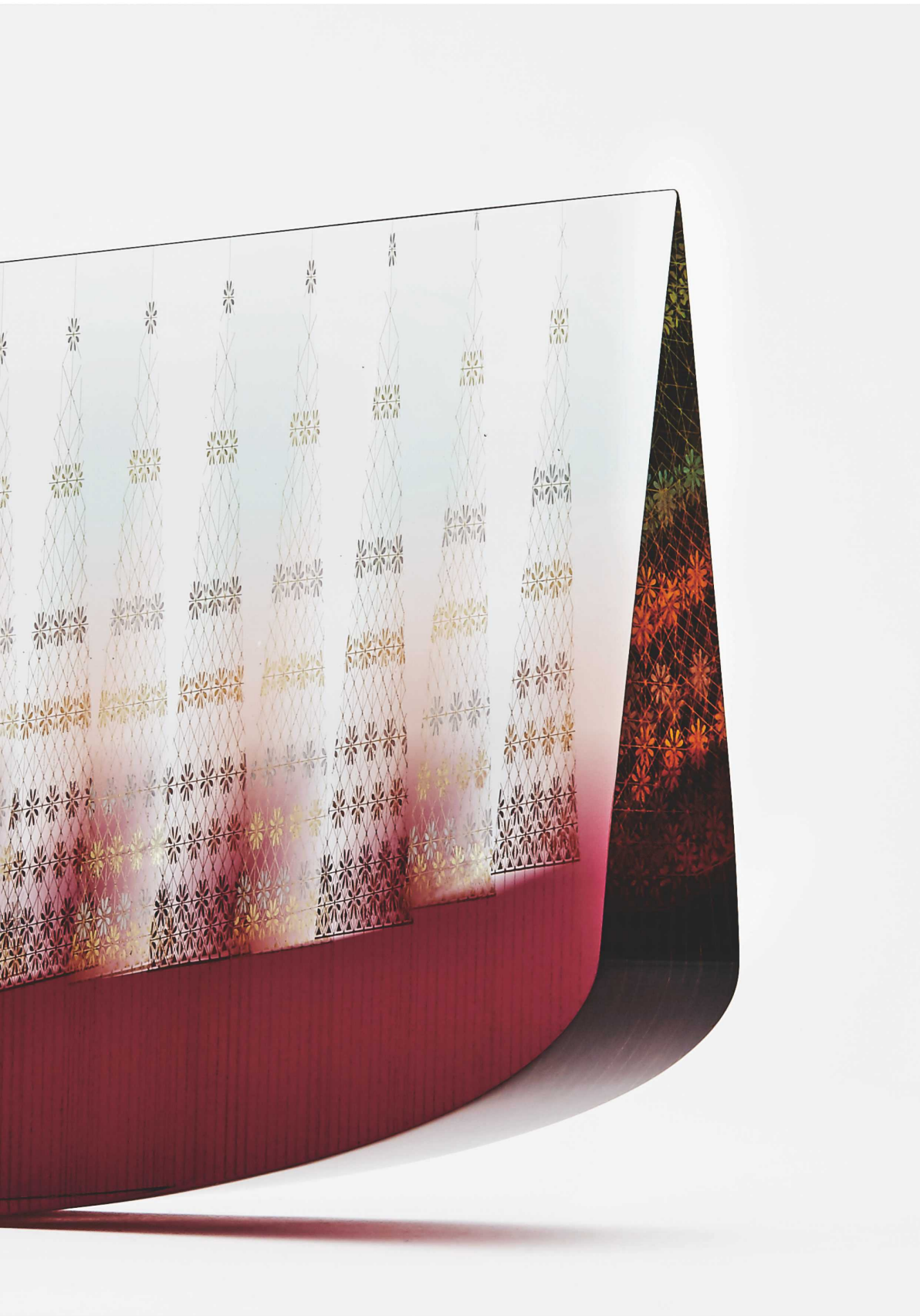
山本 茜











源氏物語シリーズ第十帖「賢木」
余話（別れのお櫛）によせて

山本 茜

齋宮は、十四にぞなりたまひける。いと
うつくしうおはするさまを、……帝、御心
動きて、別れの櫛たてまつりたまふほど、
いとあはれにて、しほたれさせたまひぬ。

齋宮は14歳におなりであった。大変美しい方で
(中略)、帝はその美しさに御心を打たれ、別れの
御櫛を髪に挿してお与えになる時、悲しみに堪え
がたくおなりになったふうで涙をこぼされた。

—— 源氏物語「賢木」より抜粋 ——

『源氏物語』五十四帖、各帖にある印象的
な場面を立体作品にすることは私のライフ
ワークです。このたび、3年ぶりにシリー
ズの新作を発表できることを嬉しく思いま
す。

実は、「賢木」の帖については、光源氏
と六条御息所の別れの場面をイメージした
「野宮の別れ」という作品を2011年に発表
していますので本作が2作目です。タイト
ルに、余話（別れのお櫛）とありますよう
に、齋王^{*1}が伊勢へ出立する直前に帝みず
からが齋王の額に櫛を挿し、別れの言葉を
告げるといふ、「発遣の儀」が題材となっ
ています。

齋王は光源氏の恋人、六条御息所の娘
(後の秋好中宮)です。齋王の美しさに魅せ
られた帝は、伊勢へ遣わすのは惜しいと恋
い焦がれますが、齋王は無邪気に母・六条
御息所とともに伊勢へ下向して親子水入ら
ずで暮らしたいと願います。二人の気持ち
のすれ違いが面白く、印象的な場面です。

3年前に制作を開始した時、私はまず齋
王制度について興味を持ちました。なぜな

ら、『源氏物語』を著した紫式部は伊勢へ行ったことはなく、存命中に齋王に会った形跡もないということを知ったからです。宮中で取材して構想を得たとしか説明ができないのです。

さらに調べてみると、『源氏物語』が書かれた少し前に、六条御息所と秋好中宮のモデルになったとされる徽子女王という実在の齋王がいたことを知りました。徽子女王は齋王を解任された後、村上天皇の妃となり、「齋宮女御」と呼ばれました。後に三十六歌仙の一人に数えられたほどの才女です。徽子女王の娘も齋王に任命されました。その時、『源氏物語』中の六条御息所のように、娘に付き添って再び伊勢へと下向したのです。

このエピソードについて、立ち止まって少し考えてみました。好奇心旺盛な紫式部のことです。『源氏物語』執筆のために伊勢に行ってみたかったのではないのでしょうか。ならば、私が紫式部に成り代わり、六条御息所と齋王の物語となり、伊勢まで旅を試みようと思ったのです。

齋王は、深夜に京都を出て、勢多（瀬田）、甲賀、垂水、鈴鹿、一志、の5か所の頓宮（仮の宮）に宿泊。途中、険しい鈴鹿峠を越え、5泊6日の工程で伊勢の齋宮（齋王の御殿）に入ったとされています。当時、齋王が輿に乗って通った道を、私は車で辿りました。車を使えばわずか1日の距離です。

頓宮跡がはっきりとわかっているのは、垂水頓宮のみ。その他の場所はさまざまな伝承地があるので、そのすべてを訪ねてみました。夕方には齋宮へ着き、伊勢で1泊

して、翌朝伊勢神宮に参拝。齋宮歴史博物館で調べ物をして、また同じ道を辿って帰る。^{※2}『源氏物語』中の六条御息所と齋王も、同じ道を使い京都まで帰ったはずですが、

京都から伊勢齋宮への道を辿ってみるとわかりますが、川を頻繁に横断します。齋王は川を横断するたびに褌を繰り返し、この世の穢れを祓いつつ伊勢へ向かったようです。私もそれらの川を渡る度に手を水に浸し、紫式部と歴代齋王に思いを馳せる。私は制作に行き詰るたびにこの旅を繰り返しました。

何度も制作に失敗し、何度も旅を繰り返す中で、作品の色と截金文様は大きな変化を遂げました。当初、別れのお櫛は柘植の櫛だったと伝えられているので、黄色のガラスで作りました。中に封入する截金は、帝と齋王の心のすれ違いが面白いと感じたので、すれ違うような截金文様で二人の心情を表していました。ところが何度もこの旅を繰り返すうちに、私はいつしか物語ではなく、実在の齋王の気持ちを追いかけるようになっていったのです。

奈良時代より、天皇に代わって伊勢神宮に遣わされ、神に祈りを捧げてきた齋王という役目。未婚の皇女の中から選ばれましたが、当時の皇室の女性は寝殿の奥深く、和歌や管弦の遊びに興を費やし、男性の庇護を頼りに生きていました。そのような中で、齋王という役職を与えられた皇女は、誇りを持って役目を果たしたのではないかと思うのです。

『源氏物語』の中でも、齋王はしっかりとした女性に成長していきます。早く母と

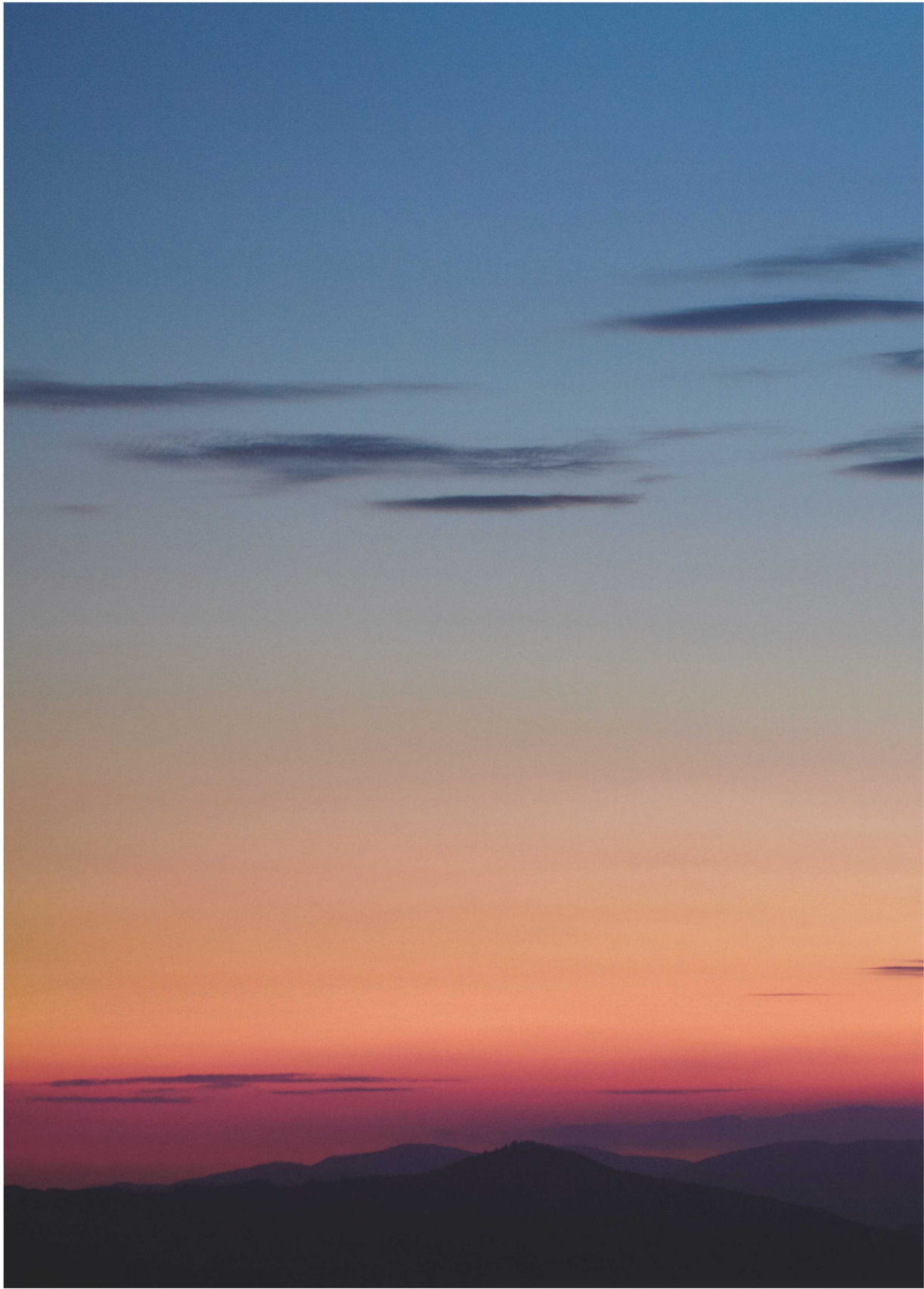
一緒に伊勢へ行きたいと無邪気に語っていた齋王ですが、その任務をみごとに果たし、帰京後は幼い帝を導く姉さん女房として後宮に迎えられ、中宮の位にまで上り詰めました。

ある日の伊勢からの帰り道、ちょうど日が落ちた頃に京都に帰り着きました。目の前に広がる美しい夕焼け空。そこで、はっとしたのです。齋王の出発は深夜。出発前に見た夕焼けが最後の京都の景色だったはず。遠い伊勢までの旅。生きて帰れる保証はなく、任期もいつまでかわかりません。この京都の夕焼け空をきっと心に刻んだにちがいない、と。

ガラスの色は黄色から夕焼け色に、そして、截金文様は山の端に残る柔らかな光を表現したものになりました。不思議なことなのですが、失敗するたびに、作り直す作品はどんどん良くなりました。この作品が失敗を繰り返したのは、この方向性は違々と、作品が拒否して自ら割れたような気さえするのです。この姿に成るべくして割れた、この作品になるのを待っていた。完成した作品は、そんなことを私に語りかけてくるのです。

※1）齋王とは、歴代天皇に代わって伊勢へ遣わされ、神に祈りを捧げる女性。天皇が即位した時に、未婚の皇女の中から占いにより選ばれる。齋宮とも呼ばれた。

※2）齋王が伊勢から都へ帰るルートには2通りあり、普通は元来た道を帰るが、凶事の際には別の道を辿り、難波津で褌をしてから都に入った。

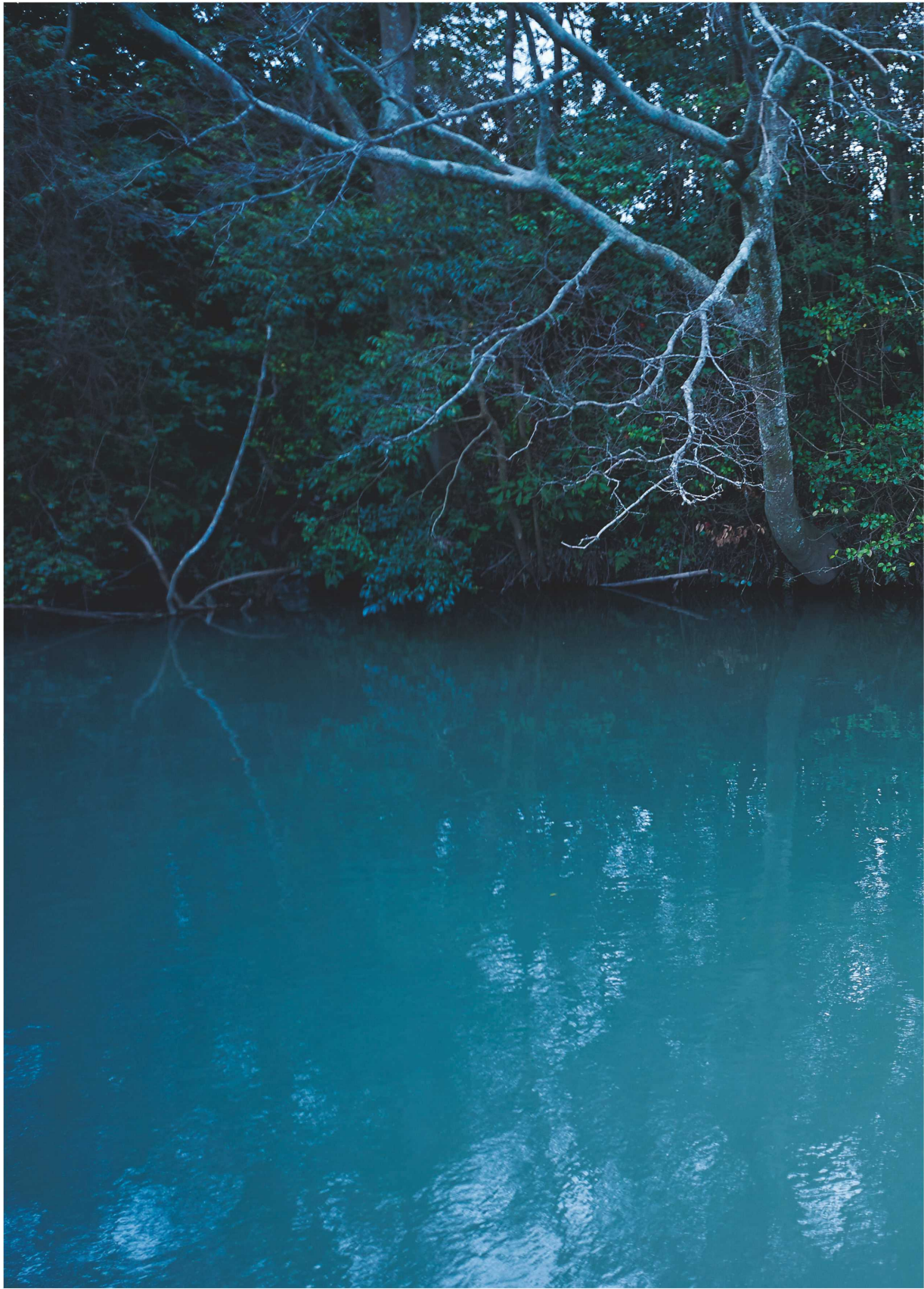


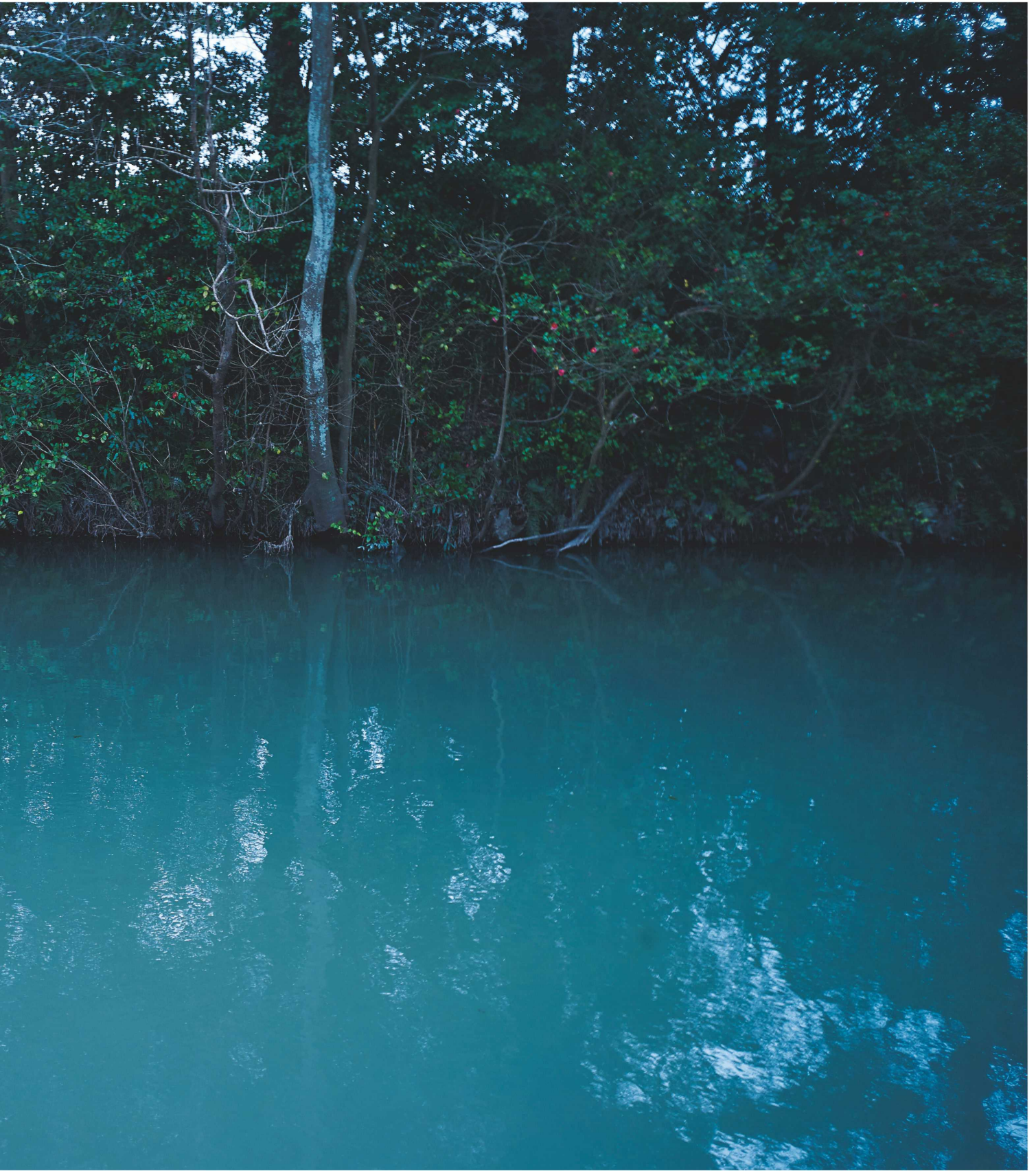


京都西山の夕焼け。山の端に残る明かりが優しく空へ溶け込む。

5か所の頓宮のうち、唯一場所が特定されている垂水頓宮跡。







斎王が禊をしたという「祓川」。護岸工事が一切されていない自然のままの川。今なお平安時代の面影を残す場所。



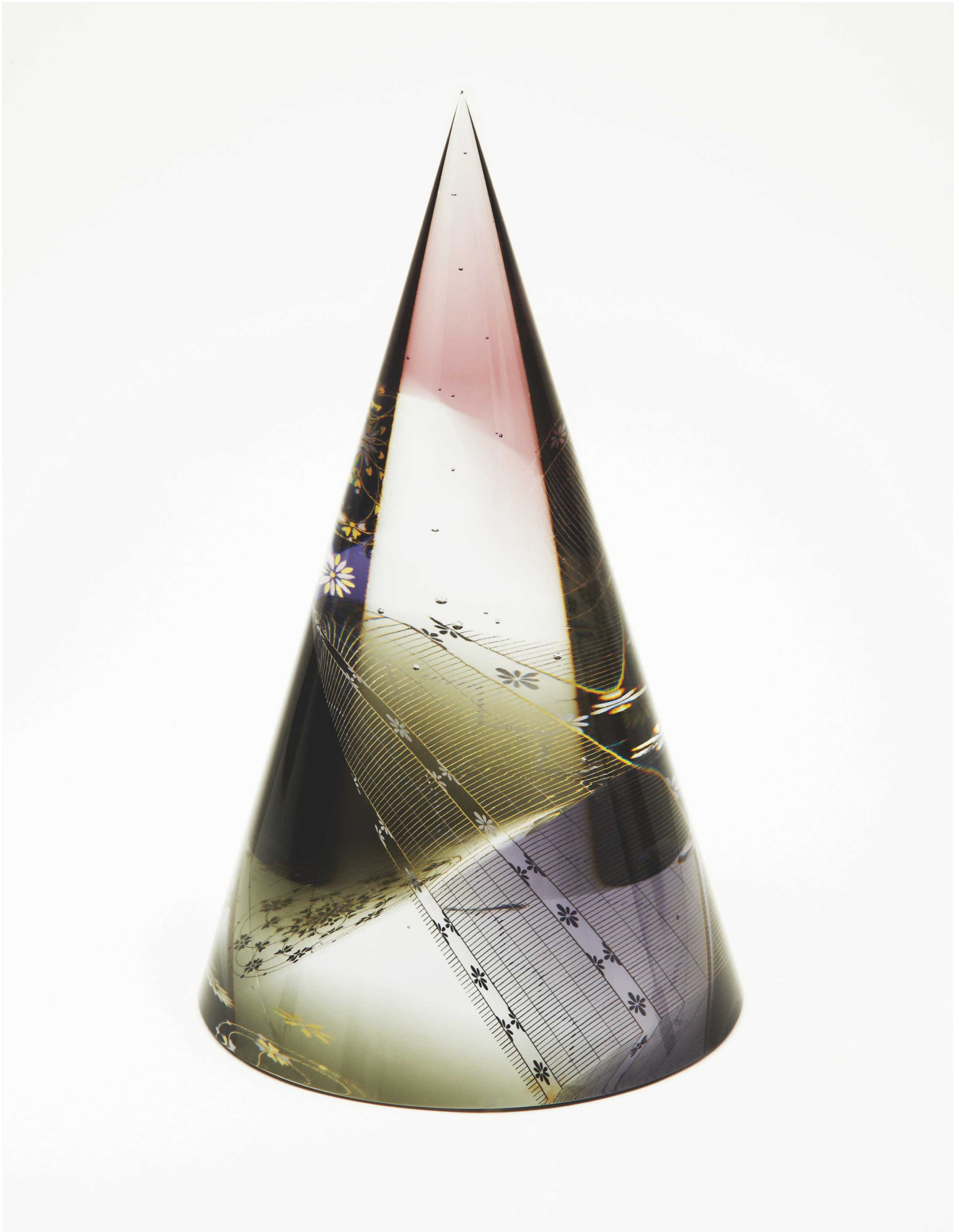


鈴鹿頓宮跡とされる片山神社にある巨大な一枚岩。古代からずっと、峠を越える人の旅の安全を見守り続けてきたのかもしれない。

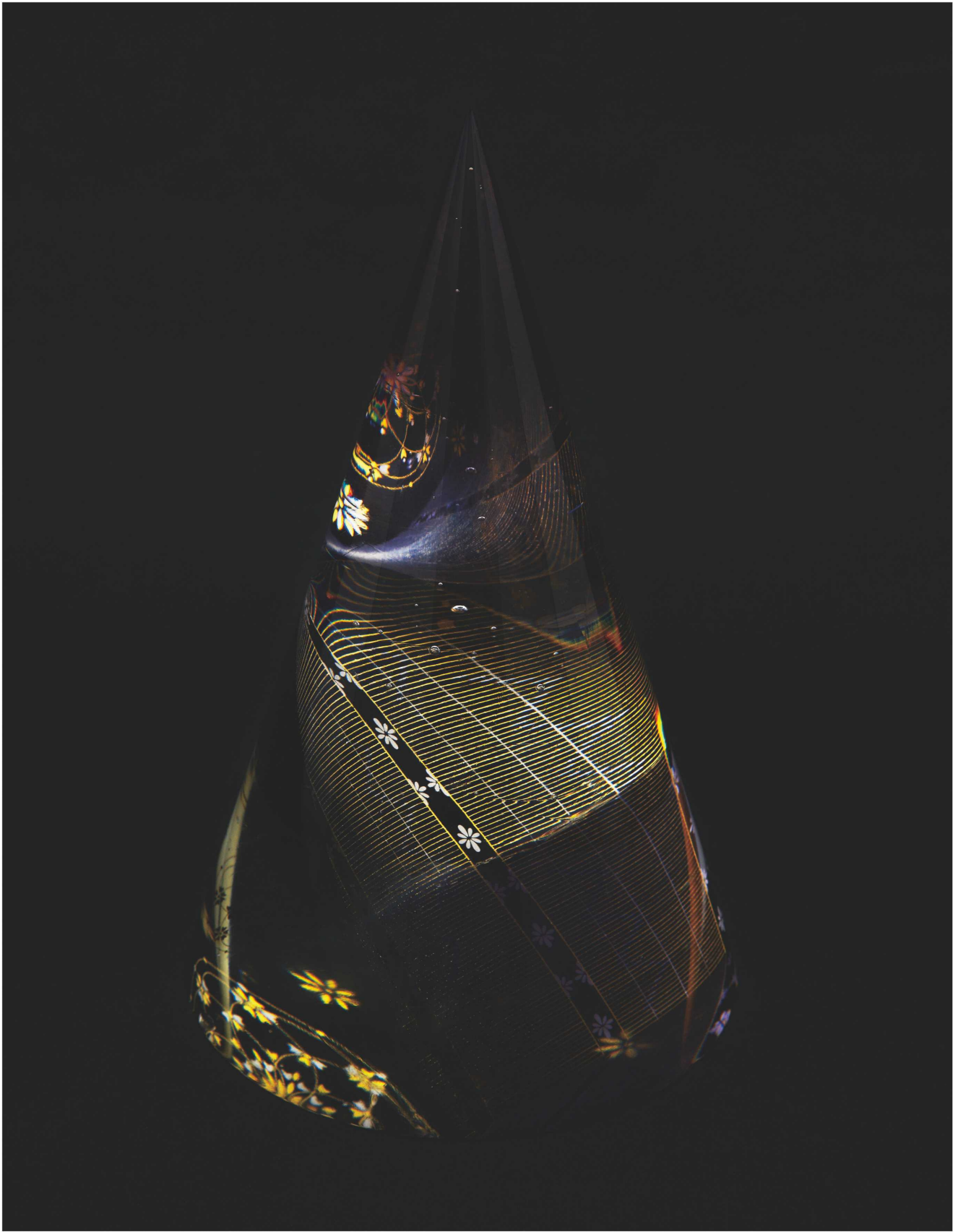






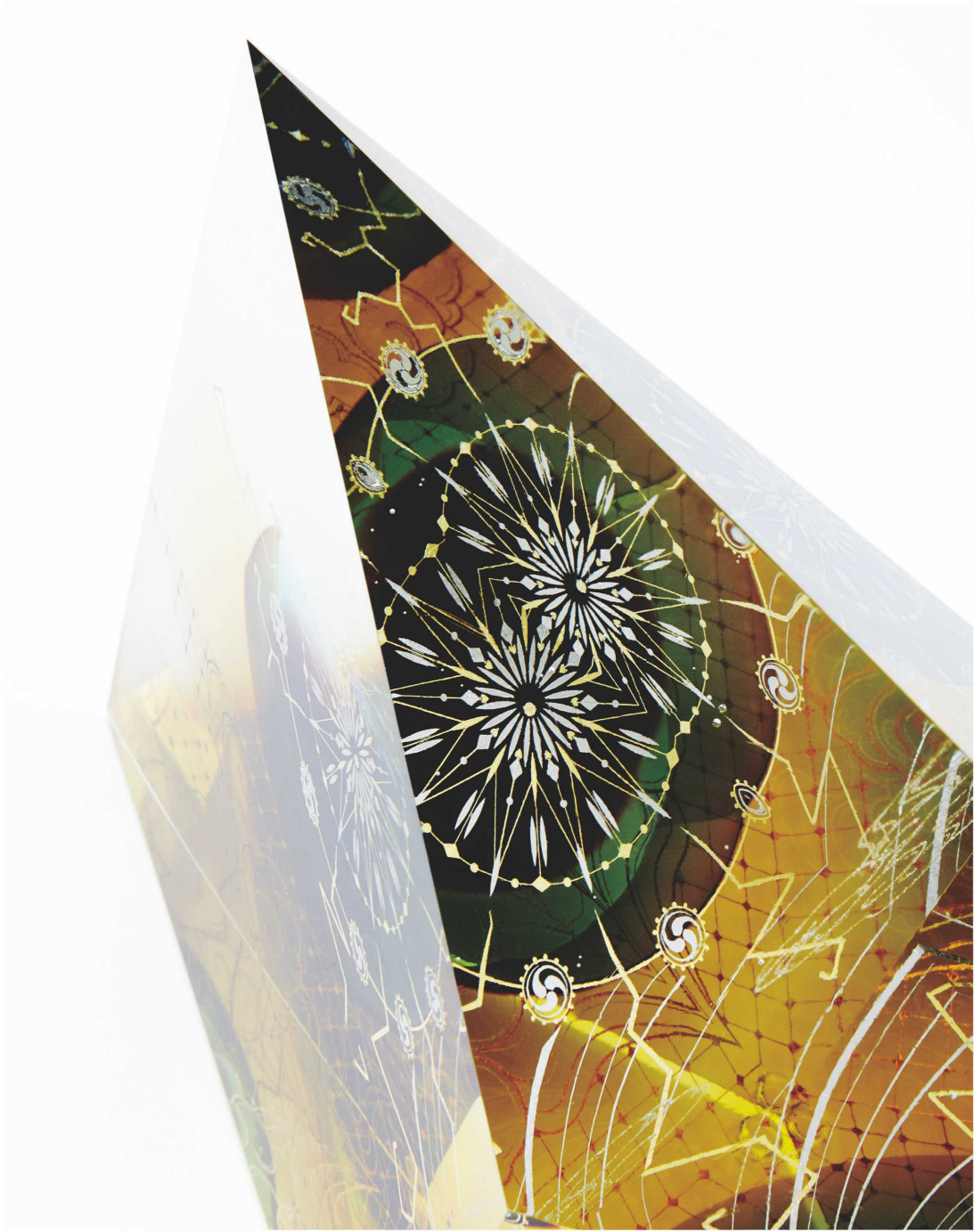




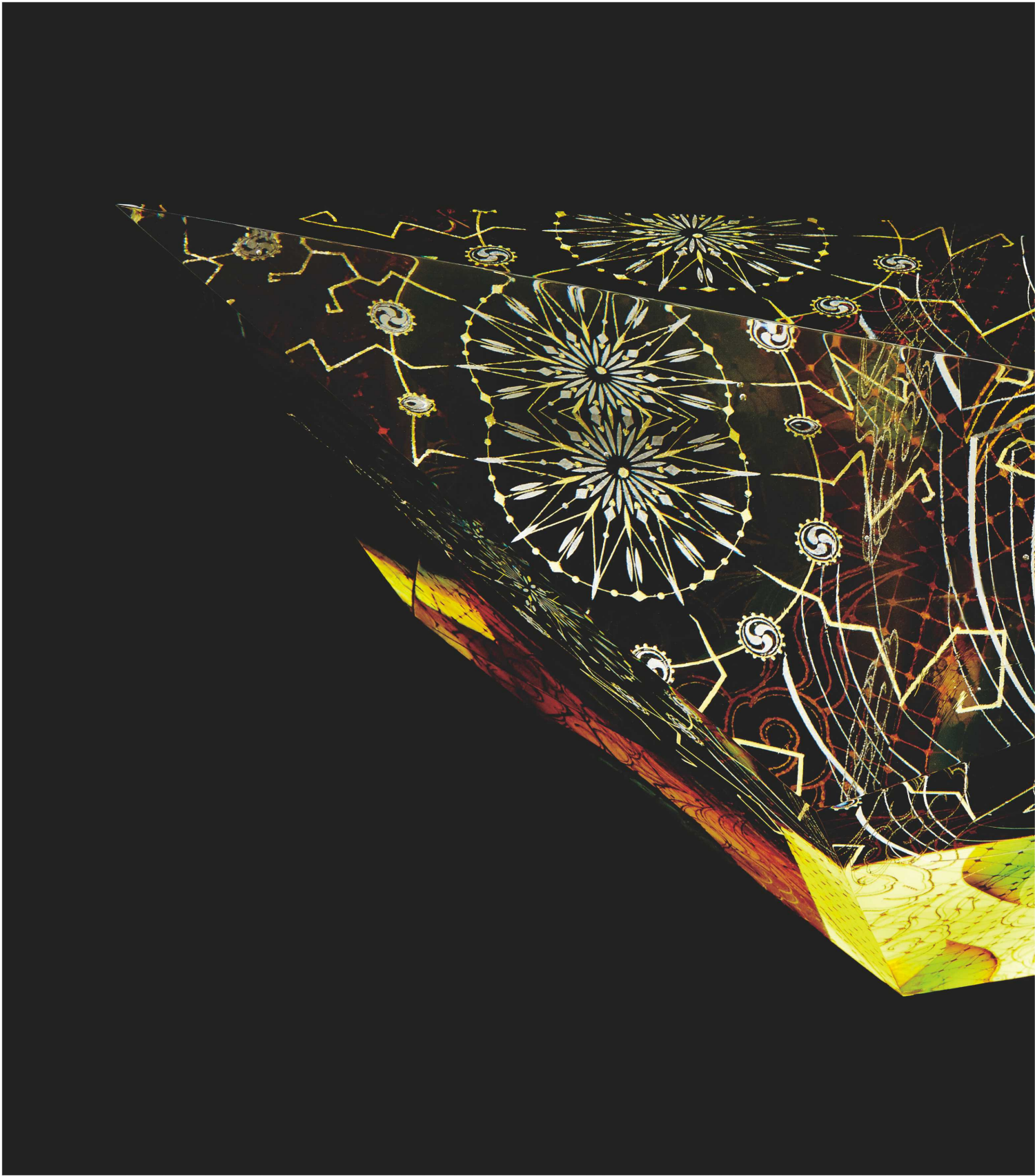


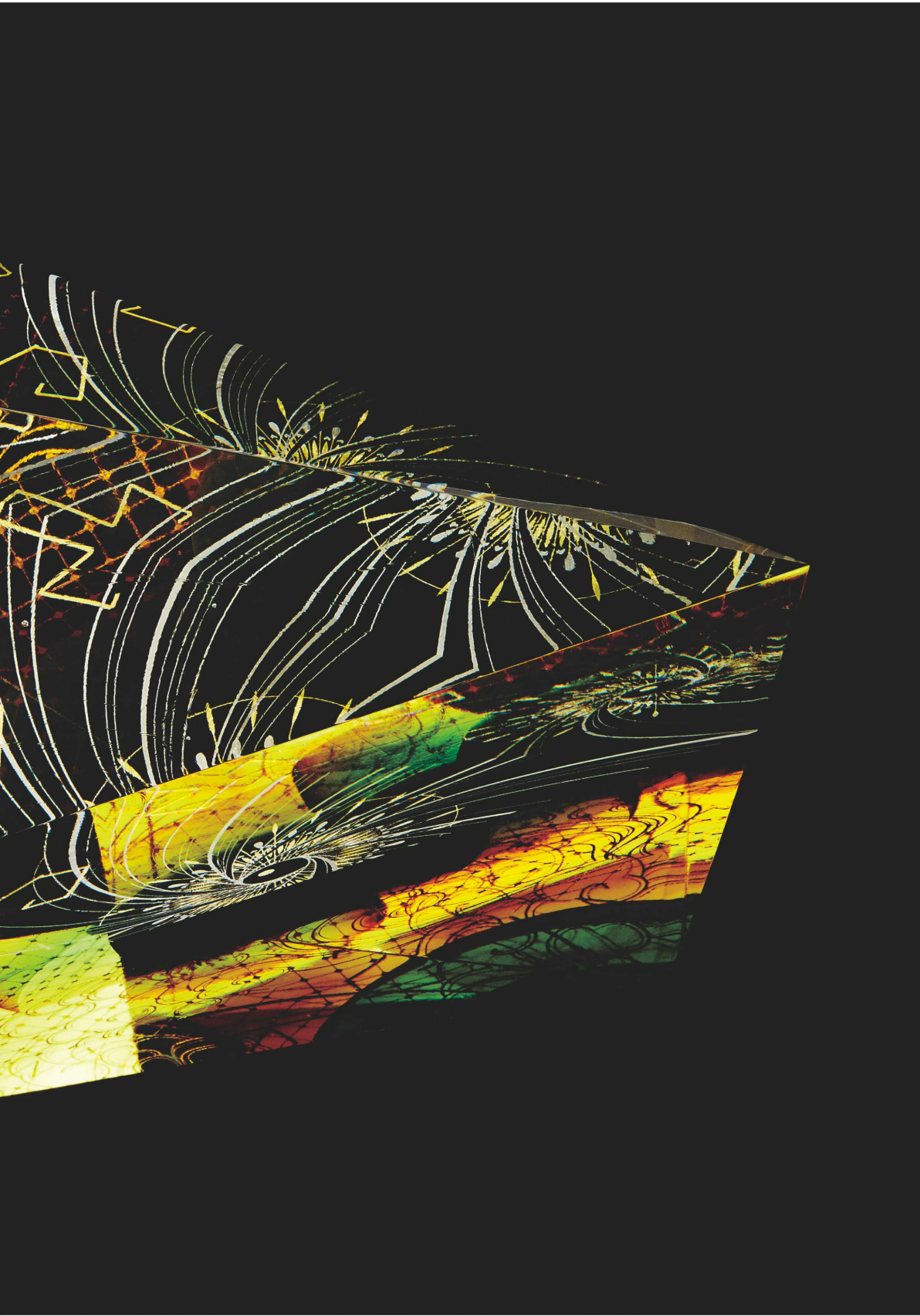




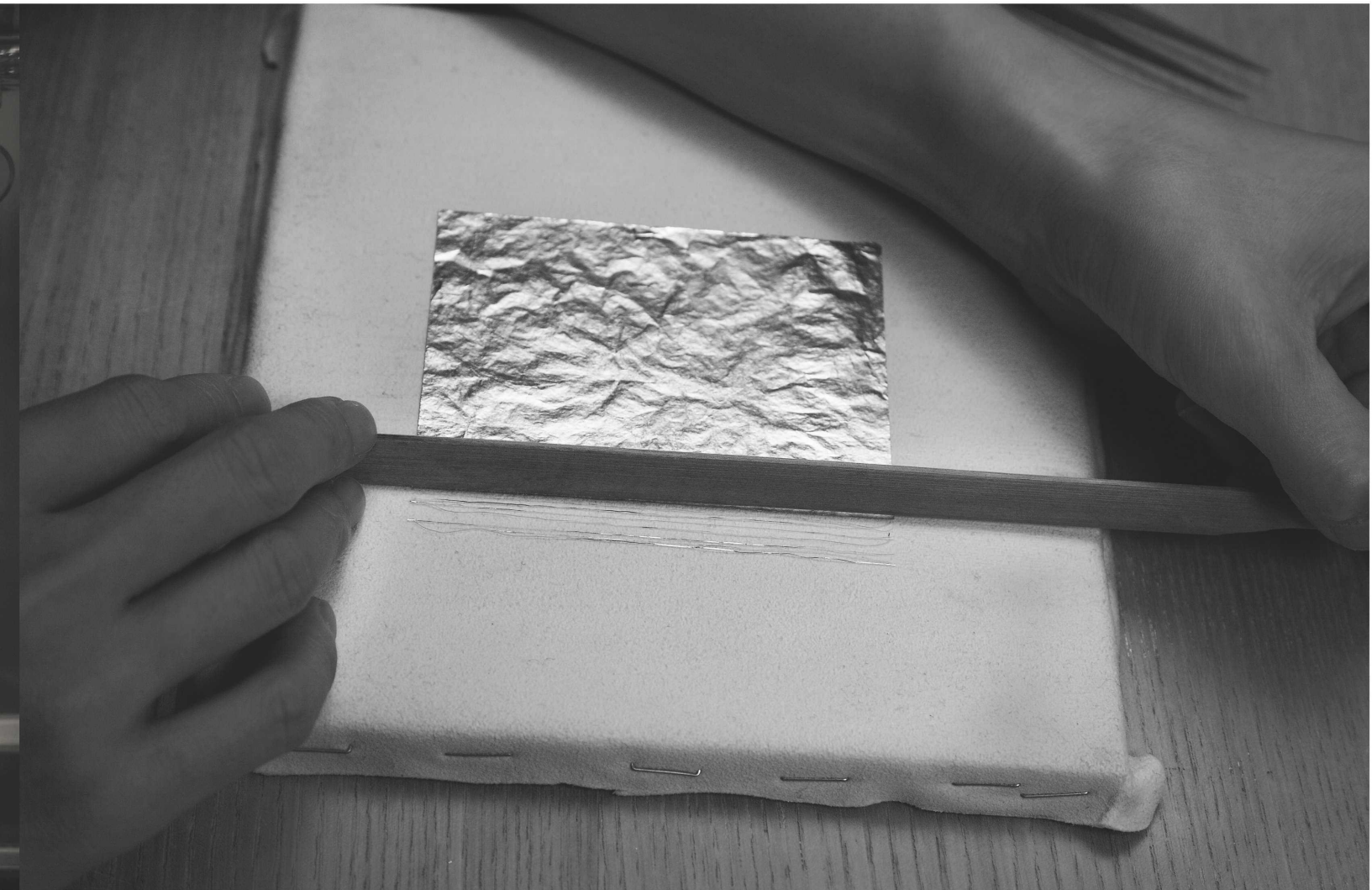


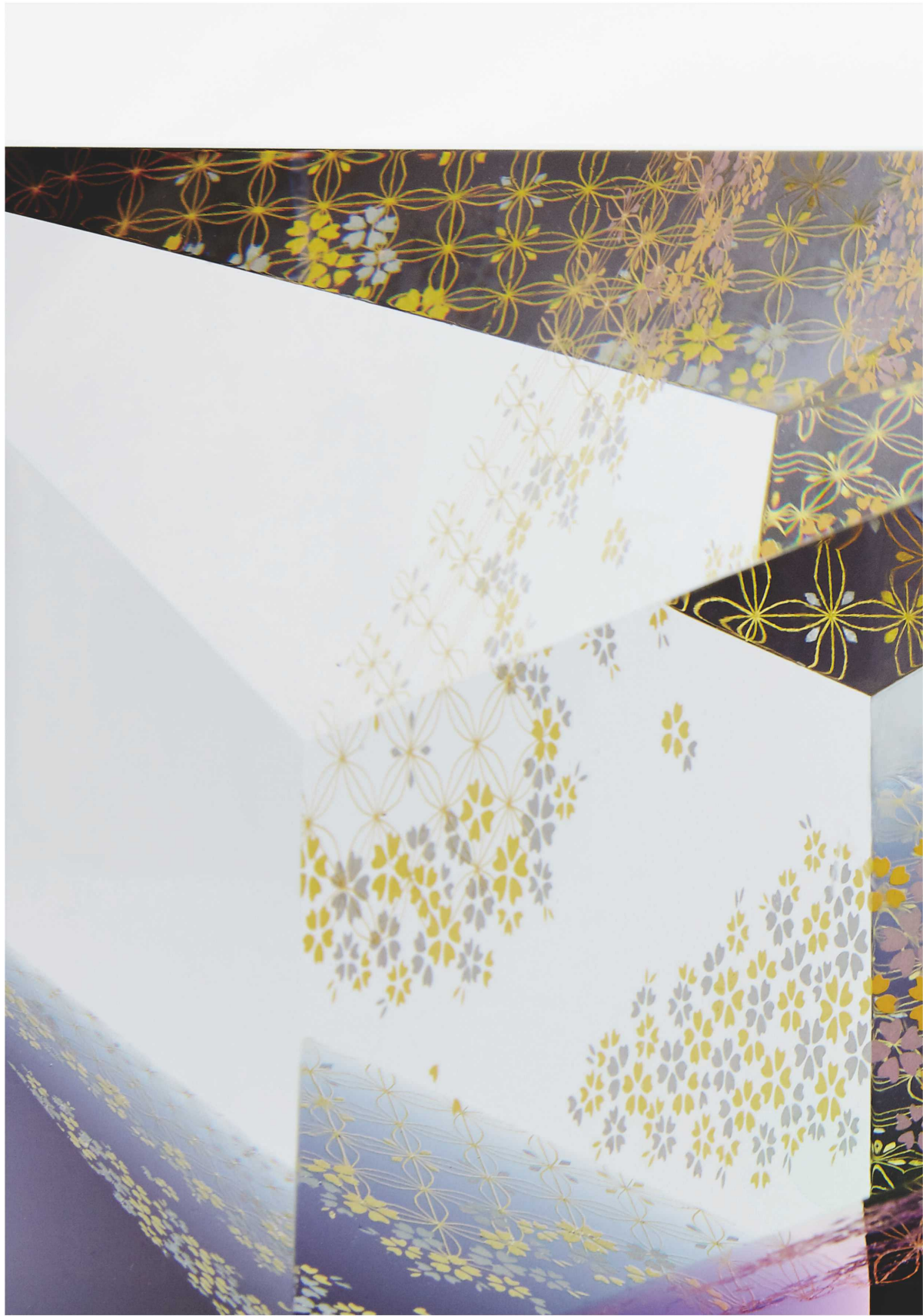






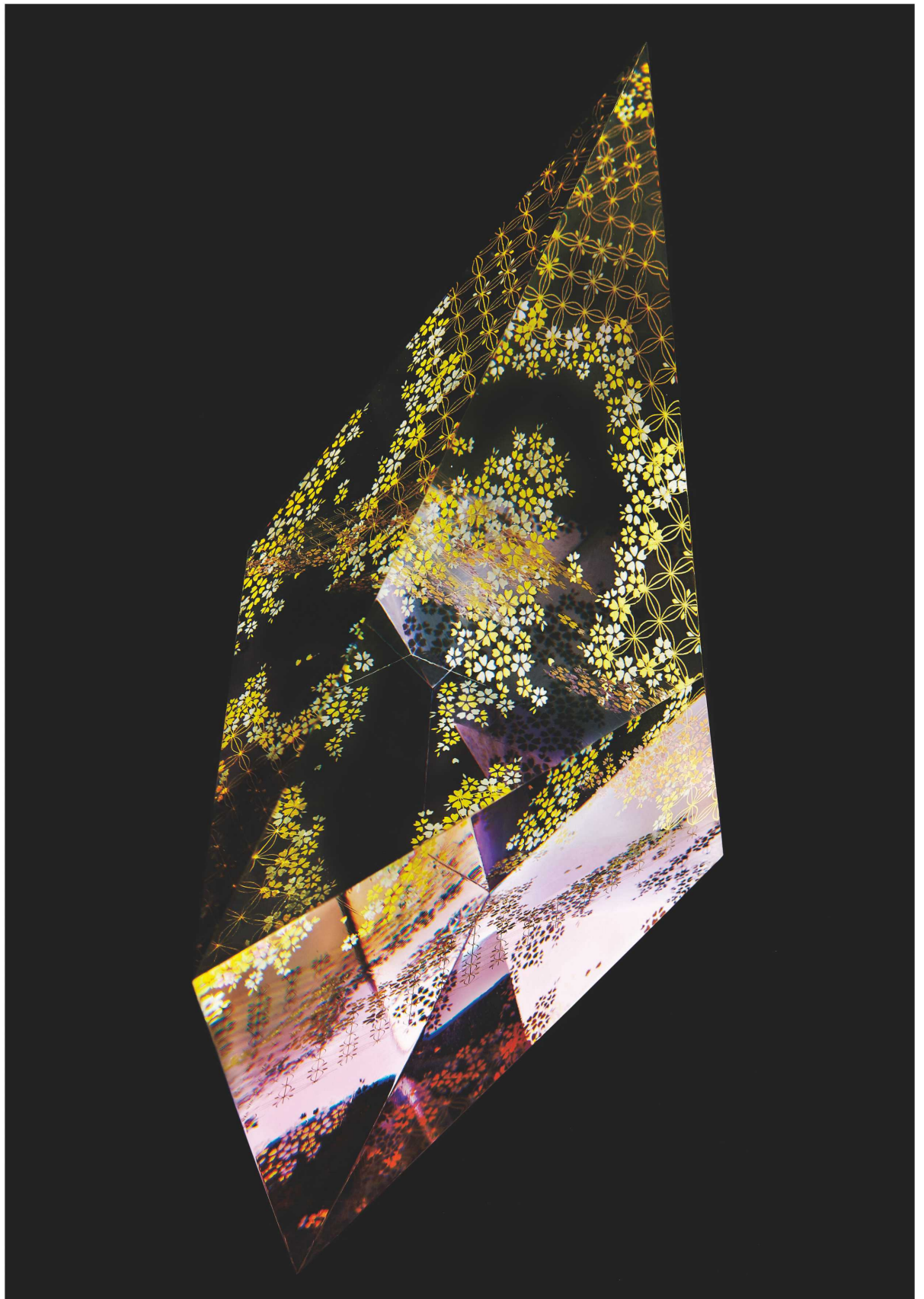








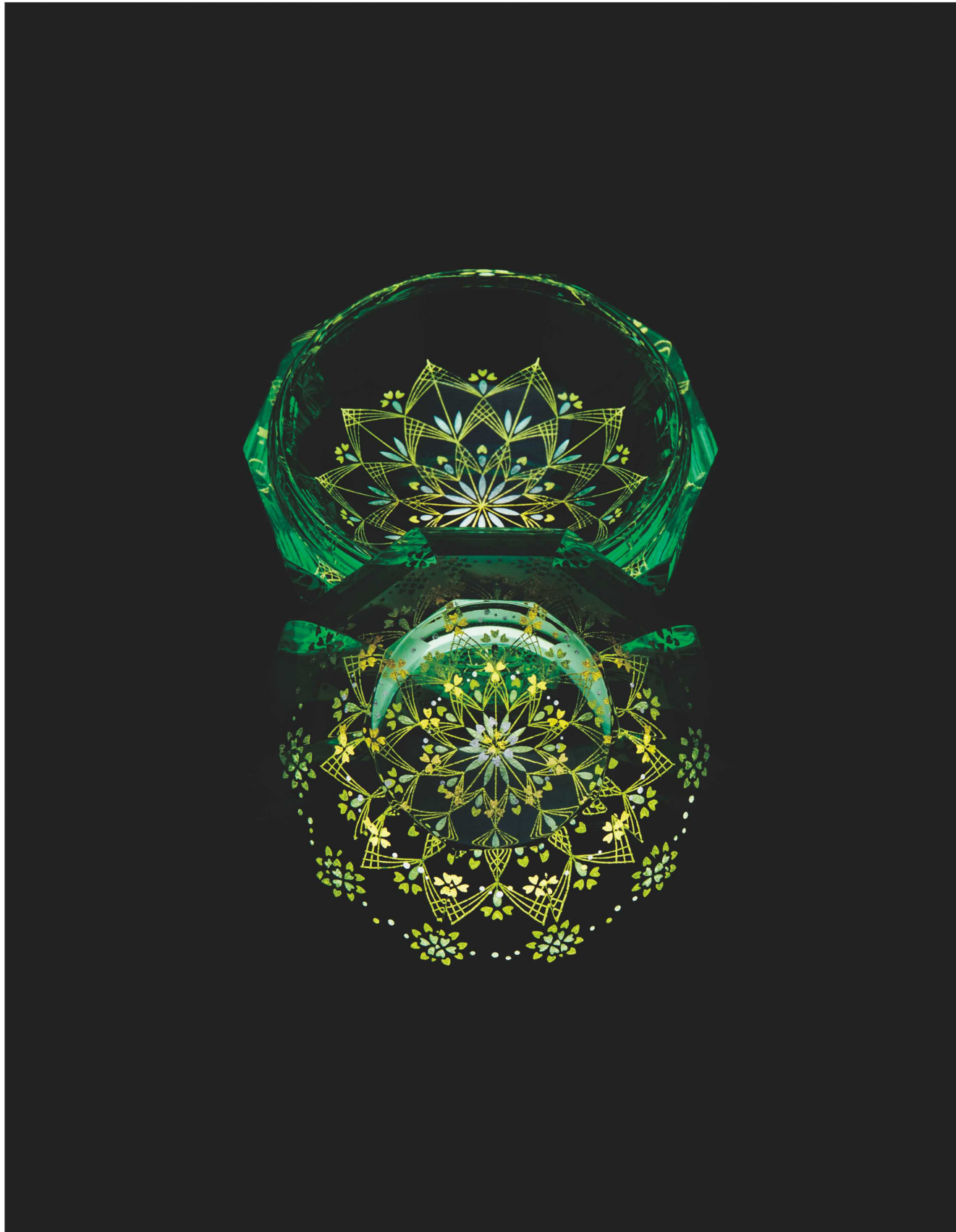


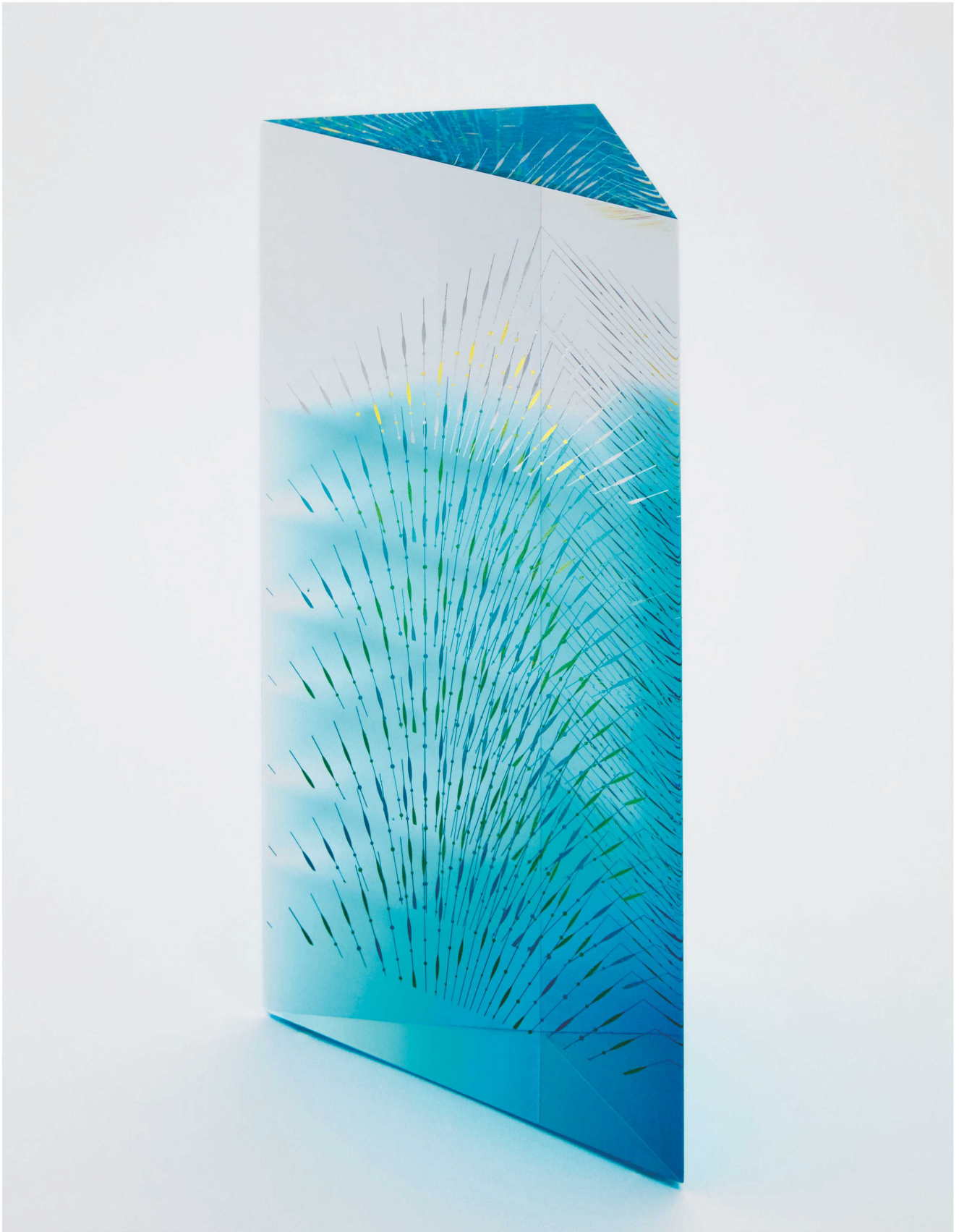




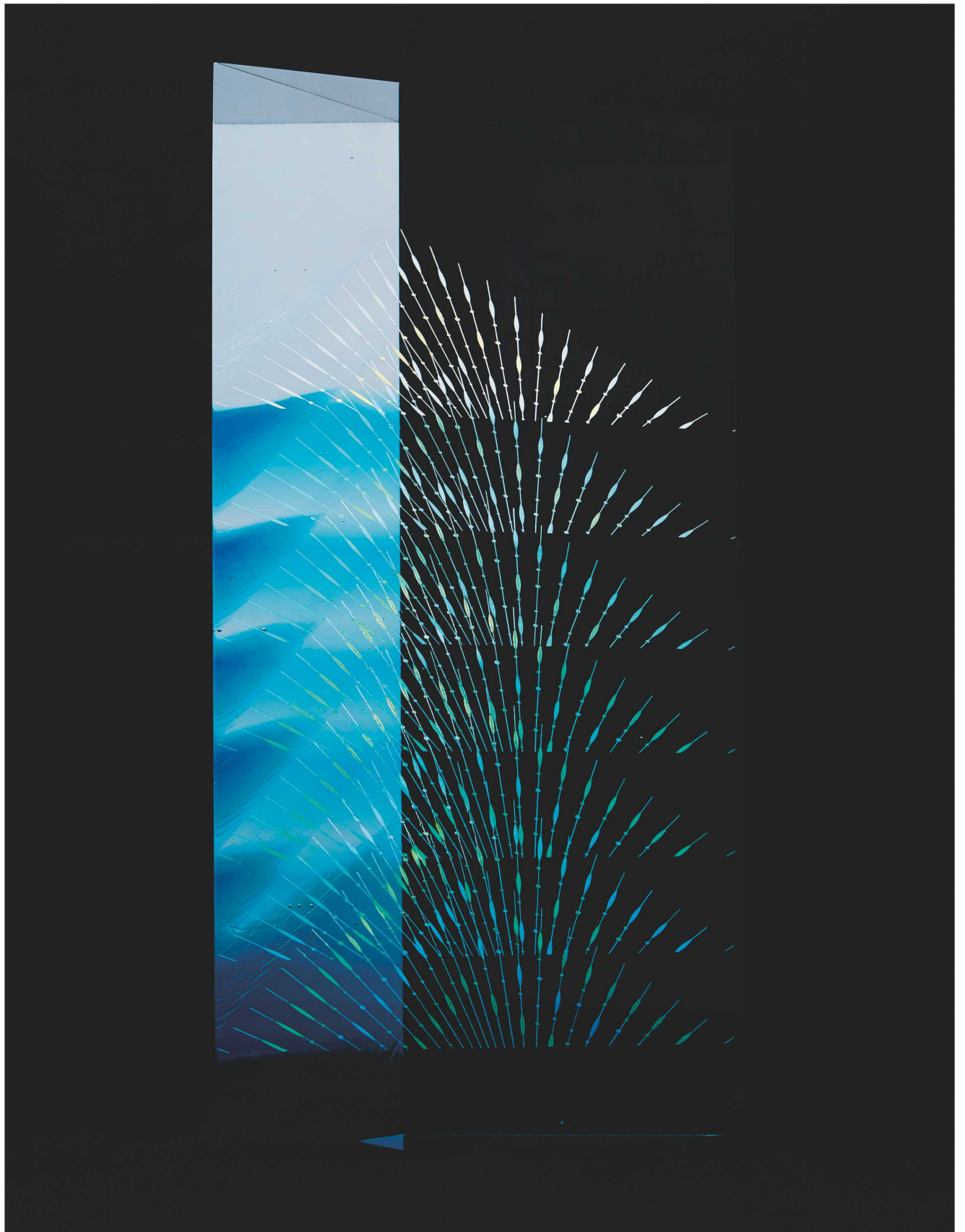
截金硝子香合「無我」

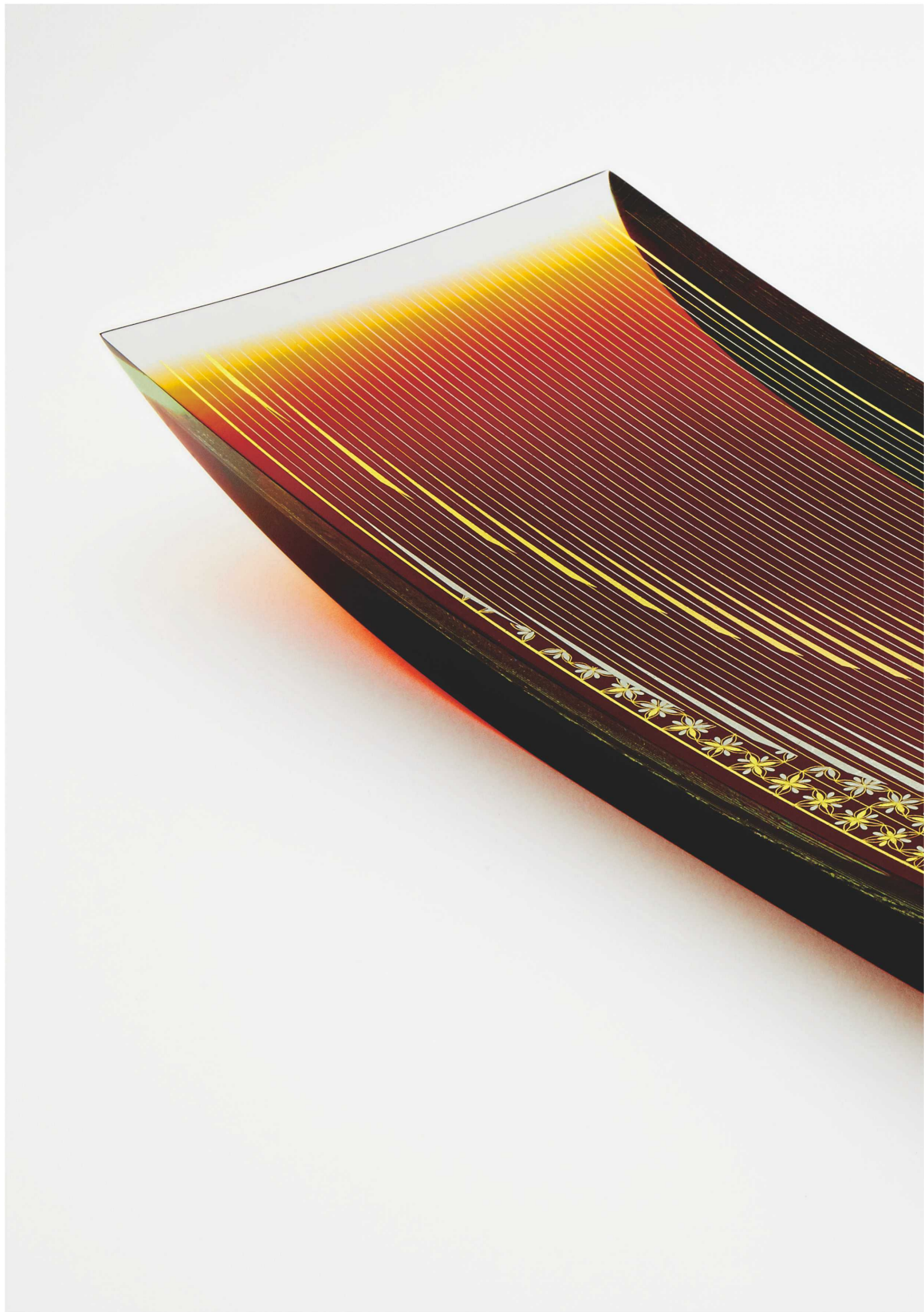


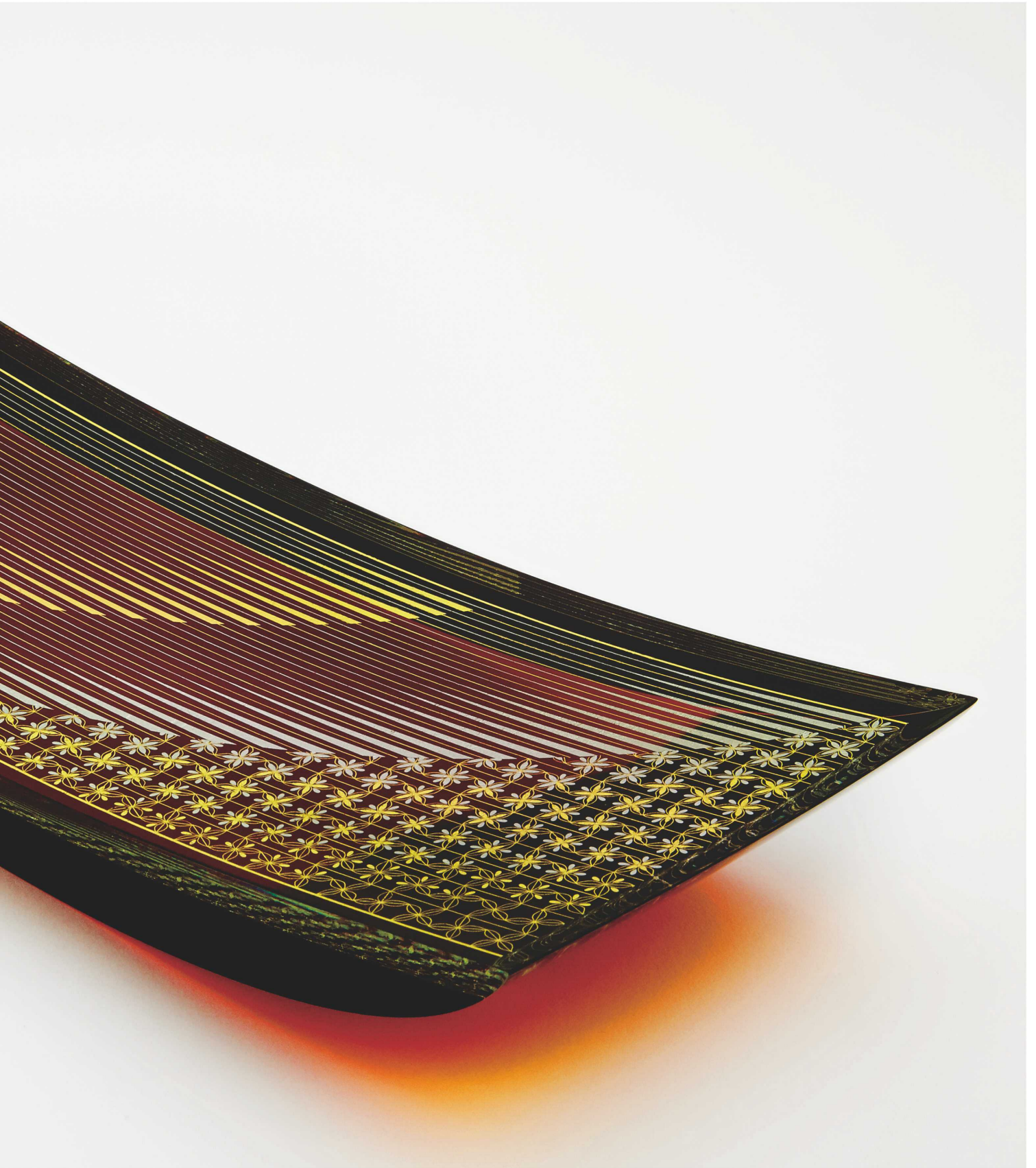




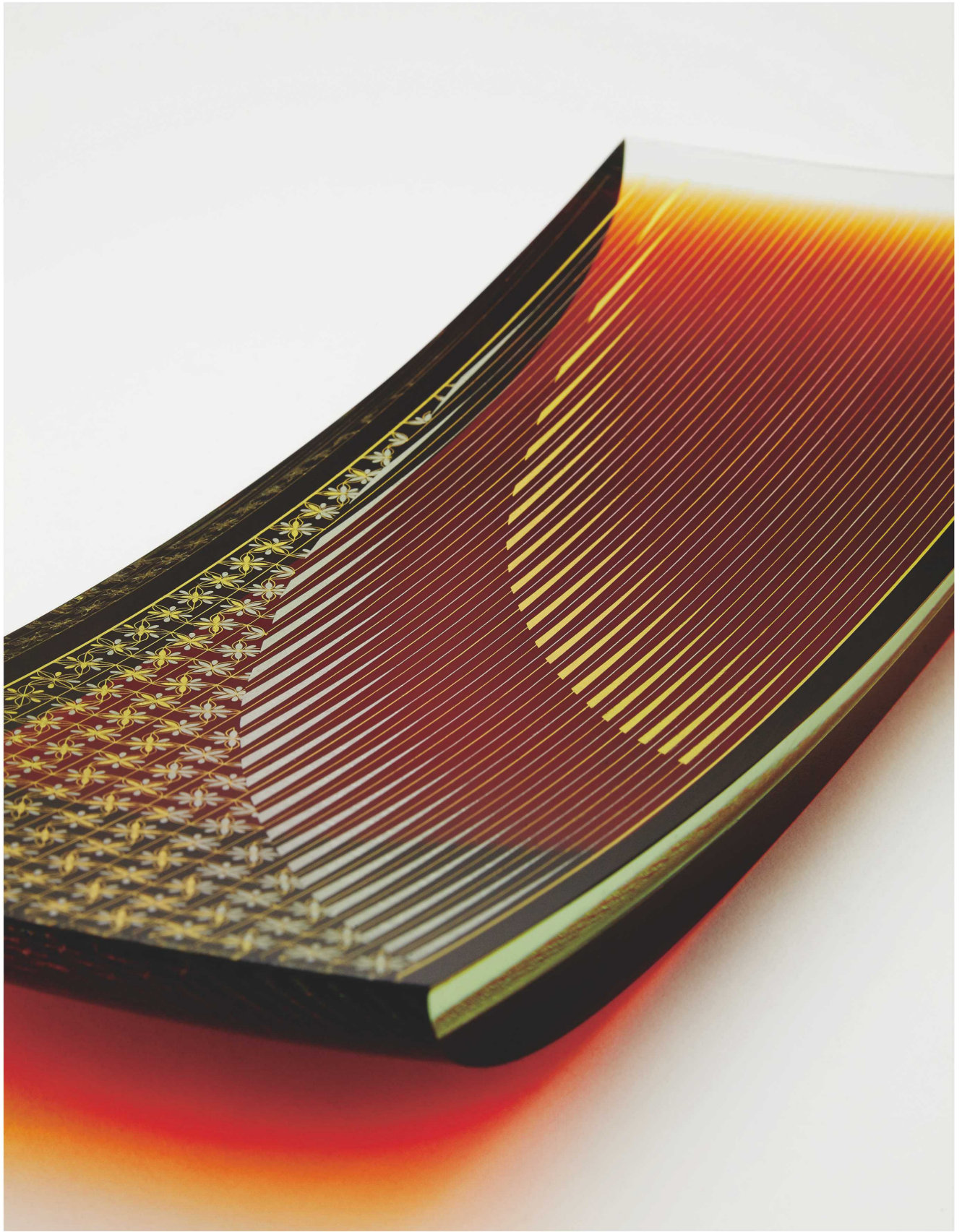
源泉







截金硝子長方皿「竜田川」









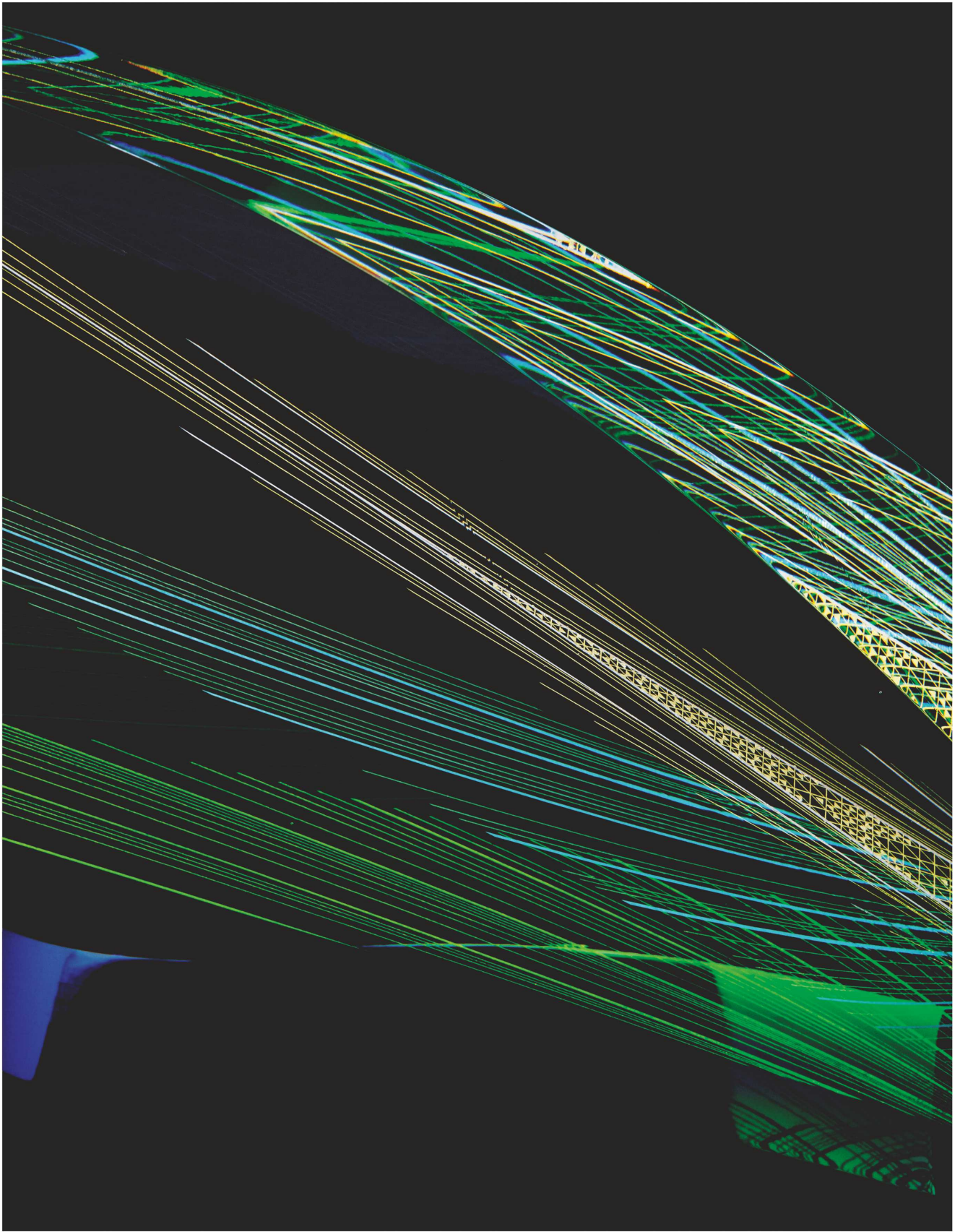
羽化（蝶）

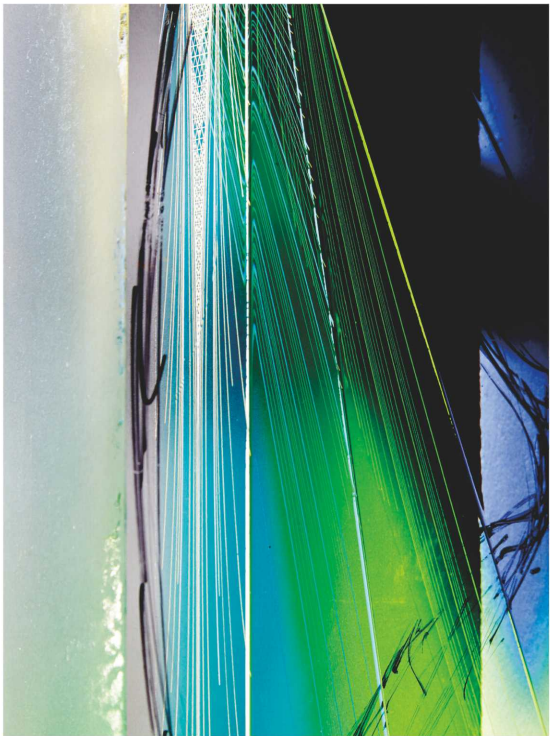
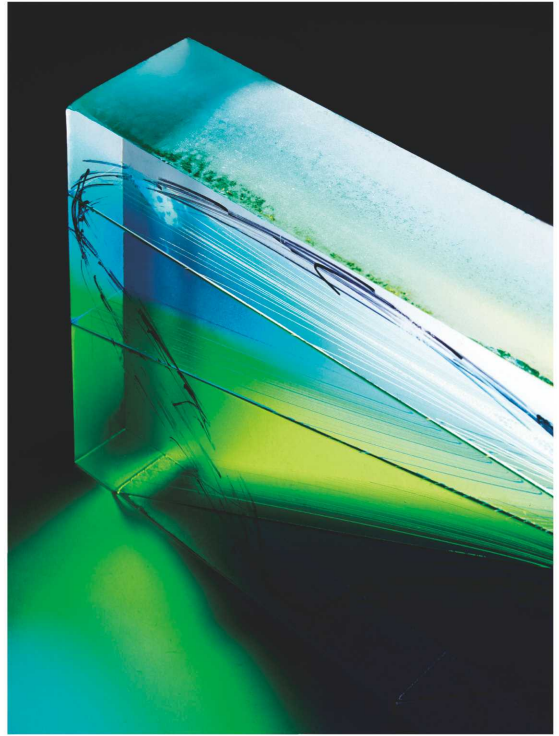
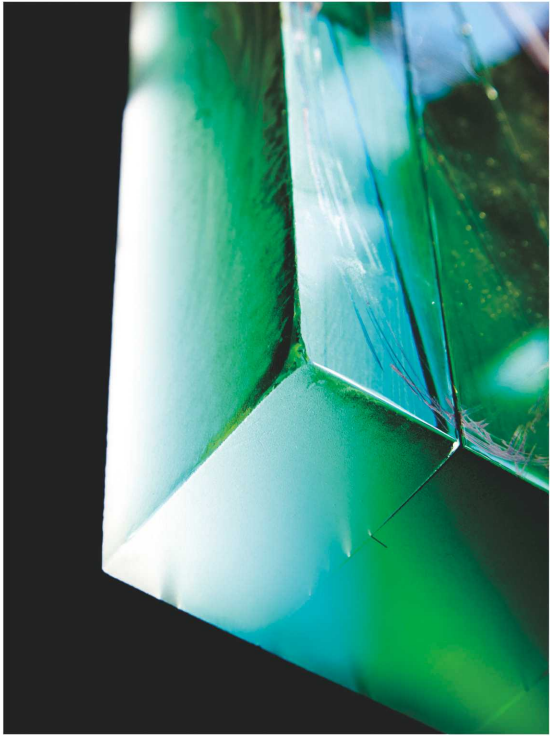


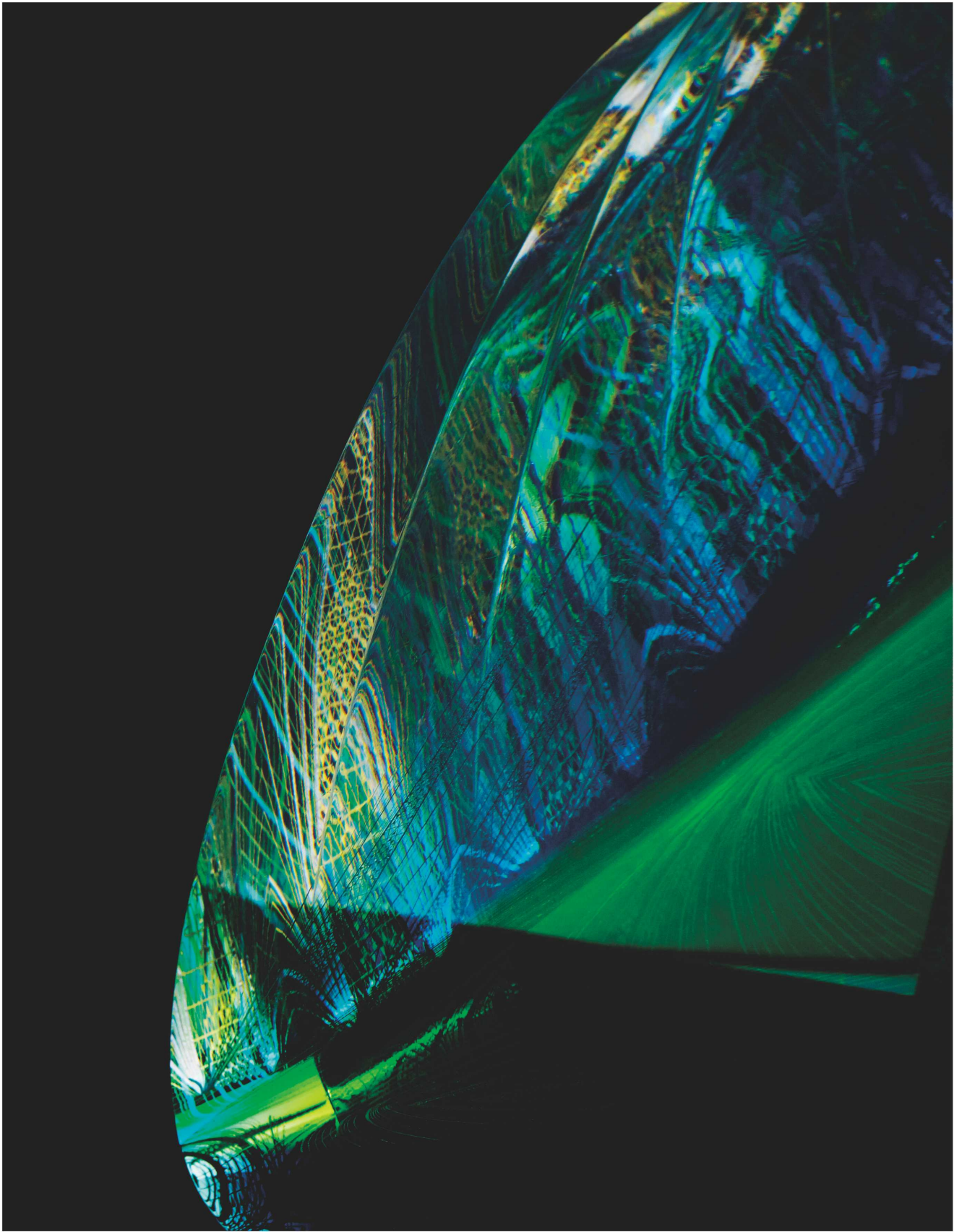


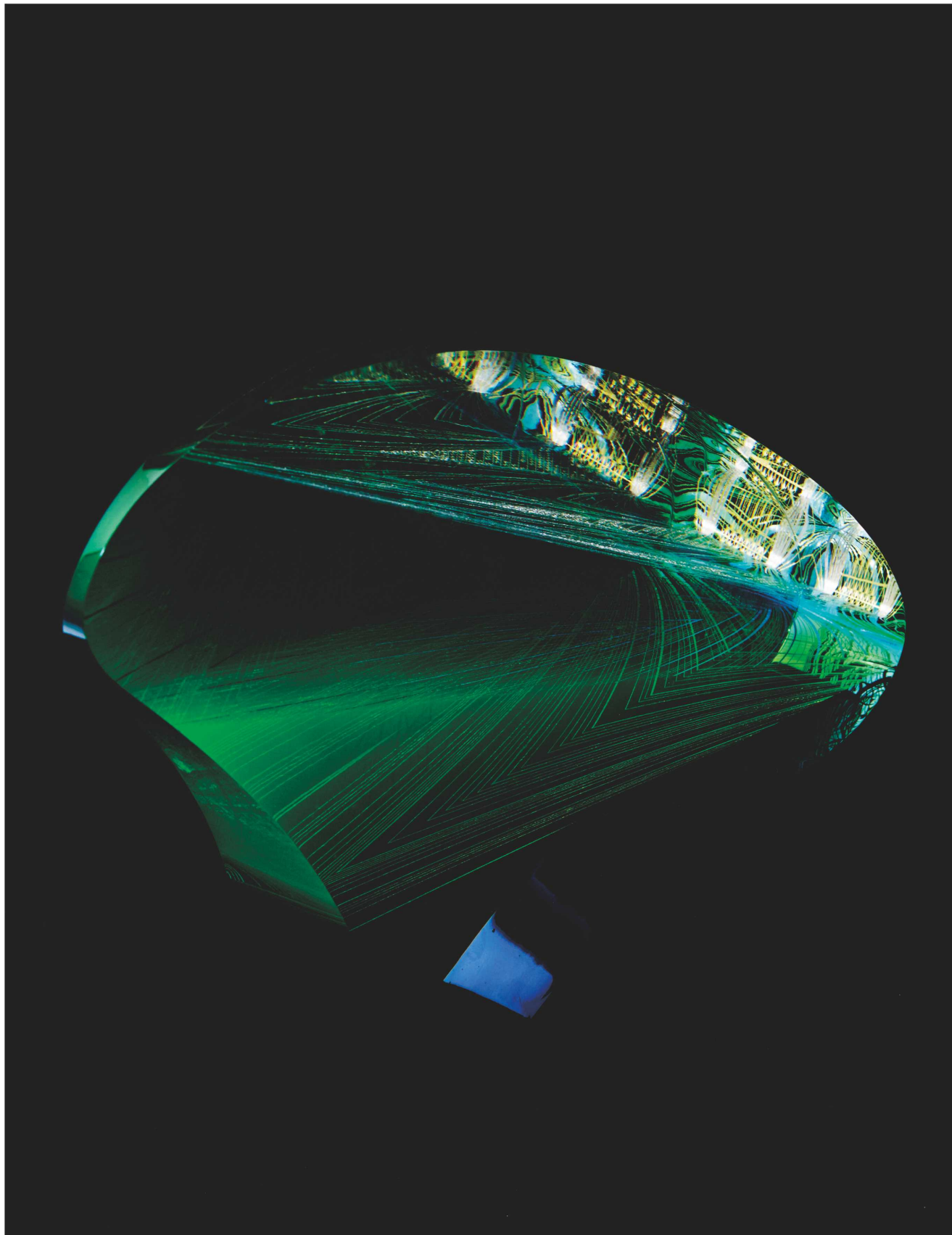
截金の封入に成功し、削り出す前のガラス「羽化(蝶)」。









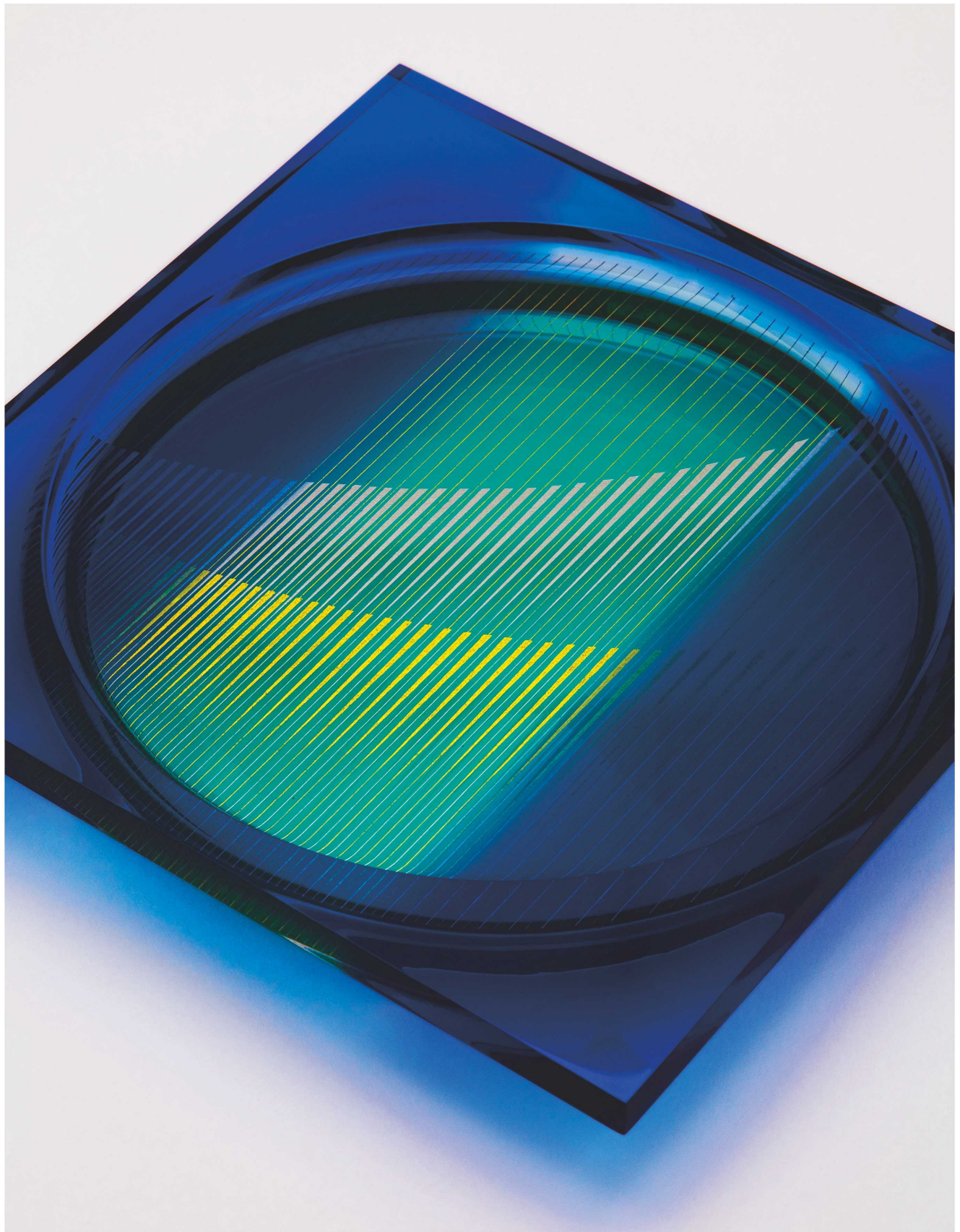












截金硝子菓子器「円窓」



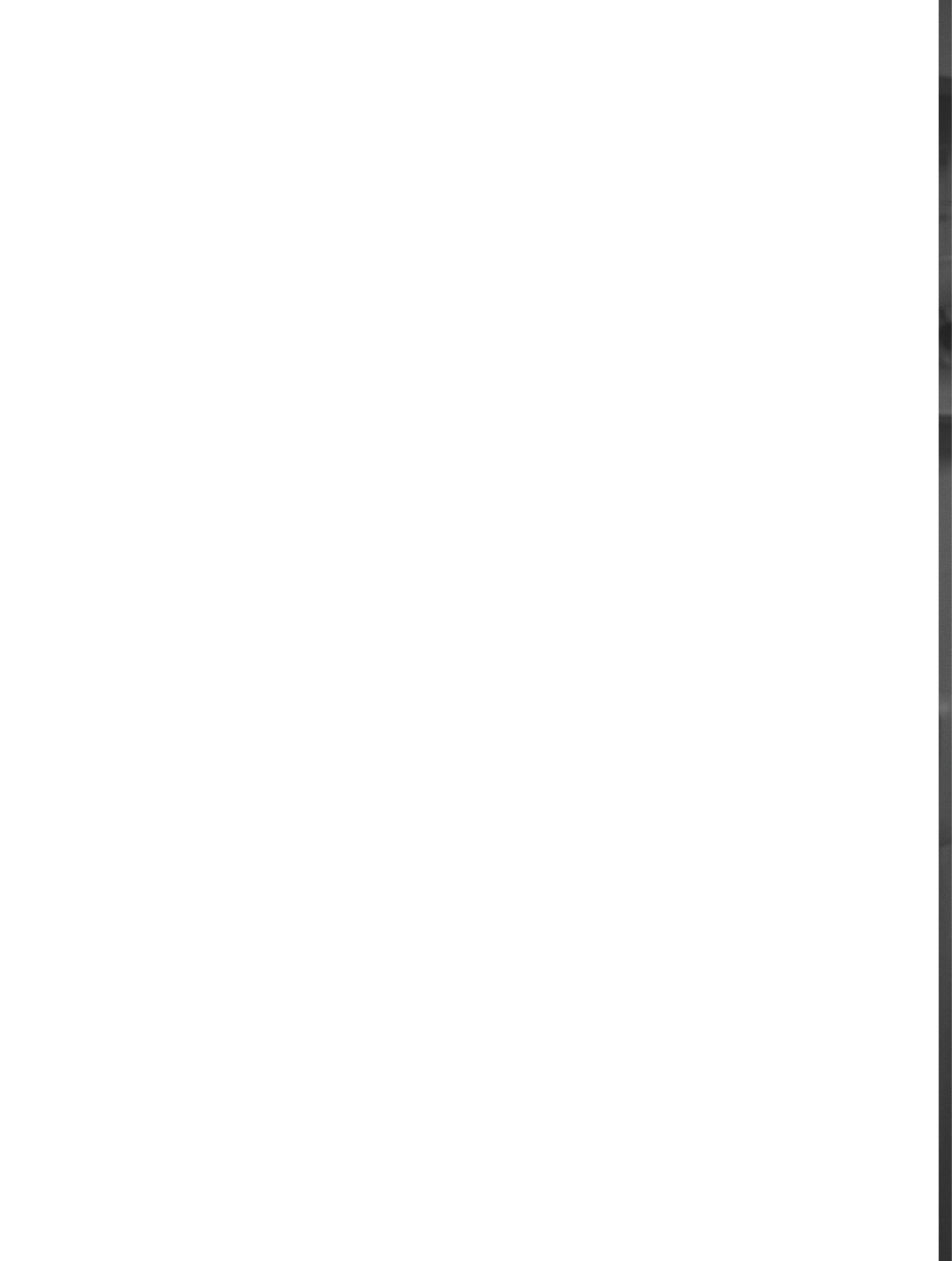
茶杓 仕覆（裂地：土屋順紀 仕立：後藤絹代）





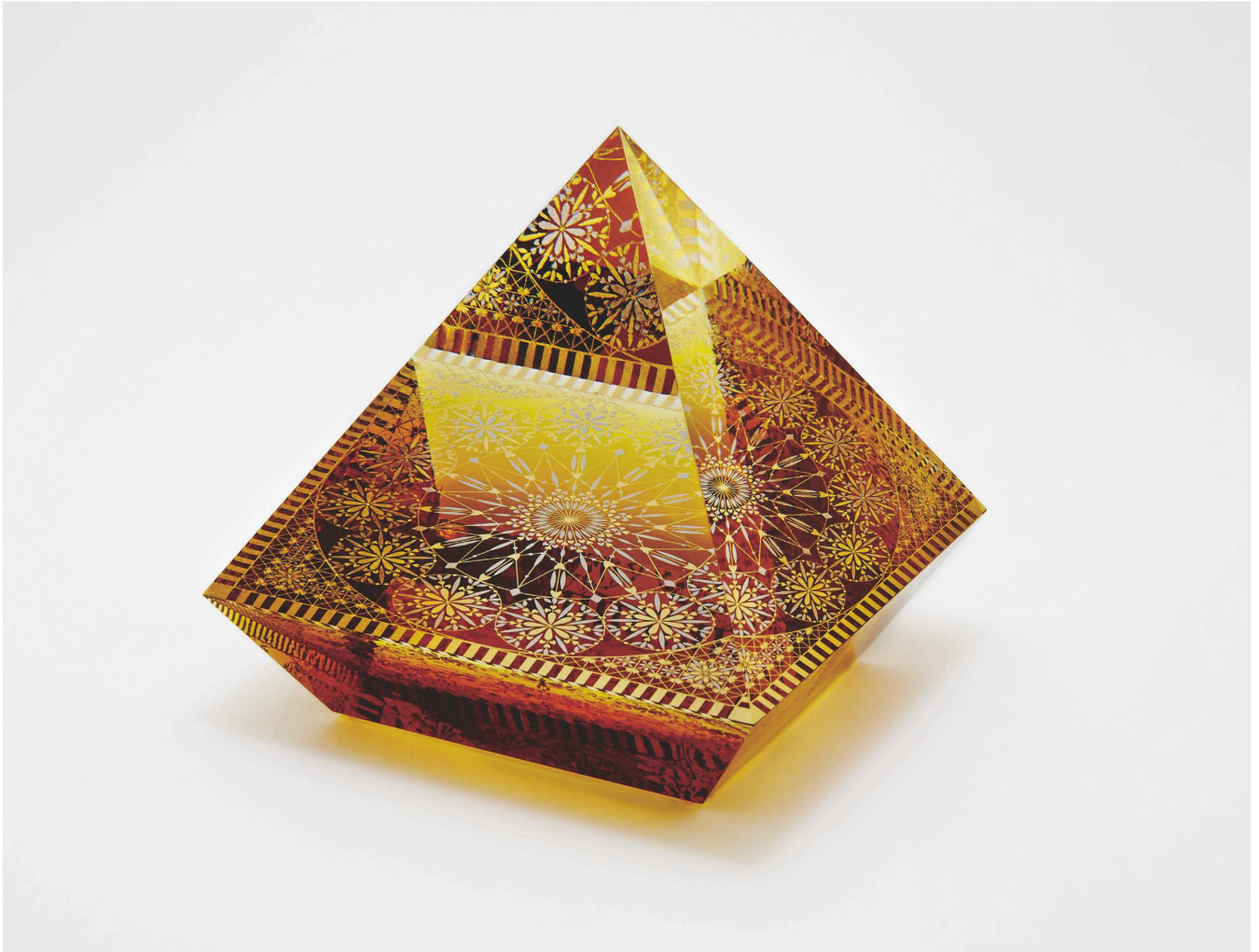
截金硝子掛花「光華」





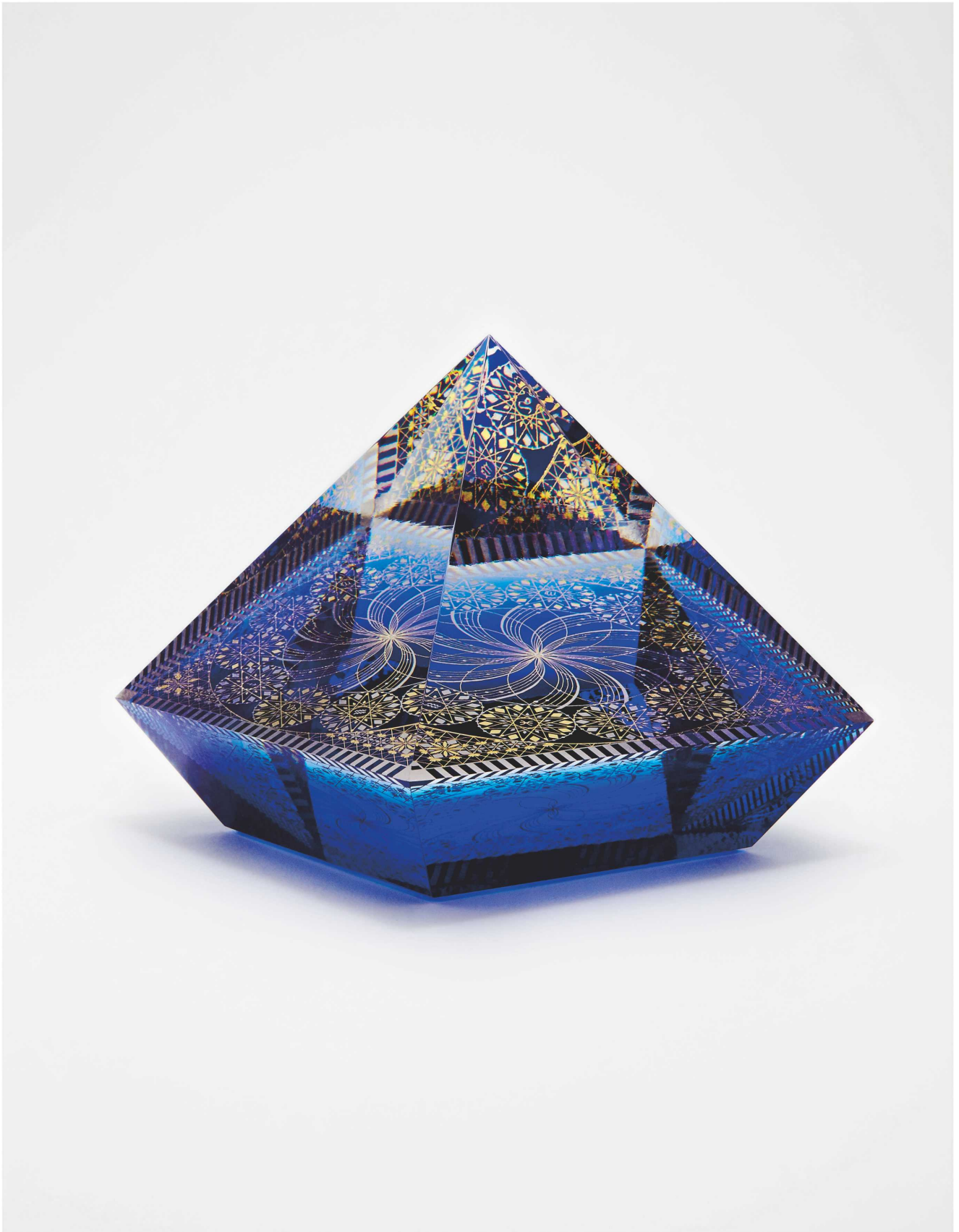




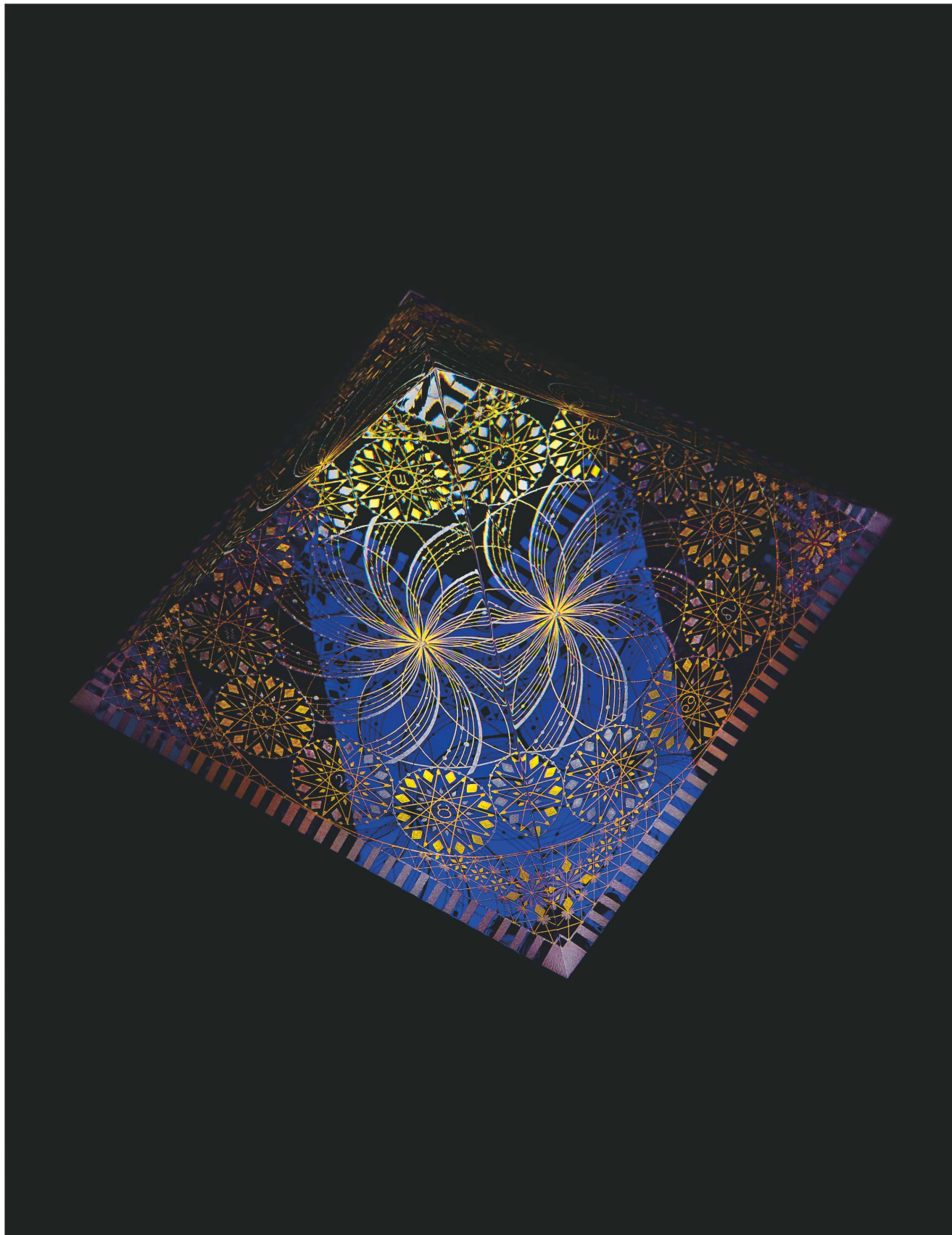


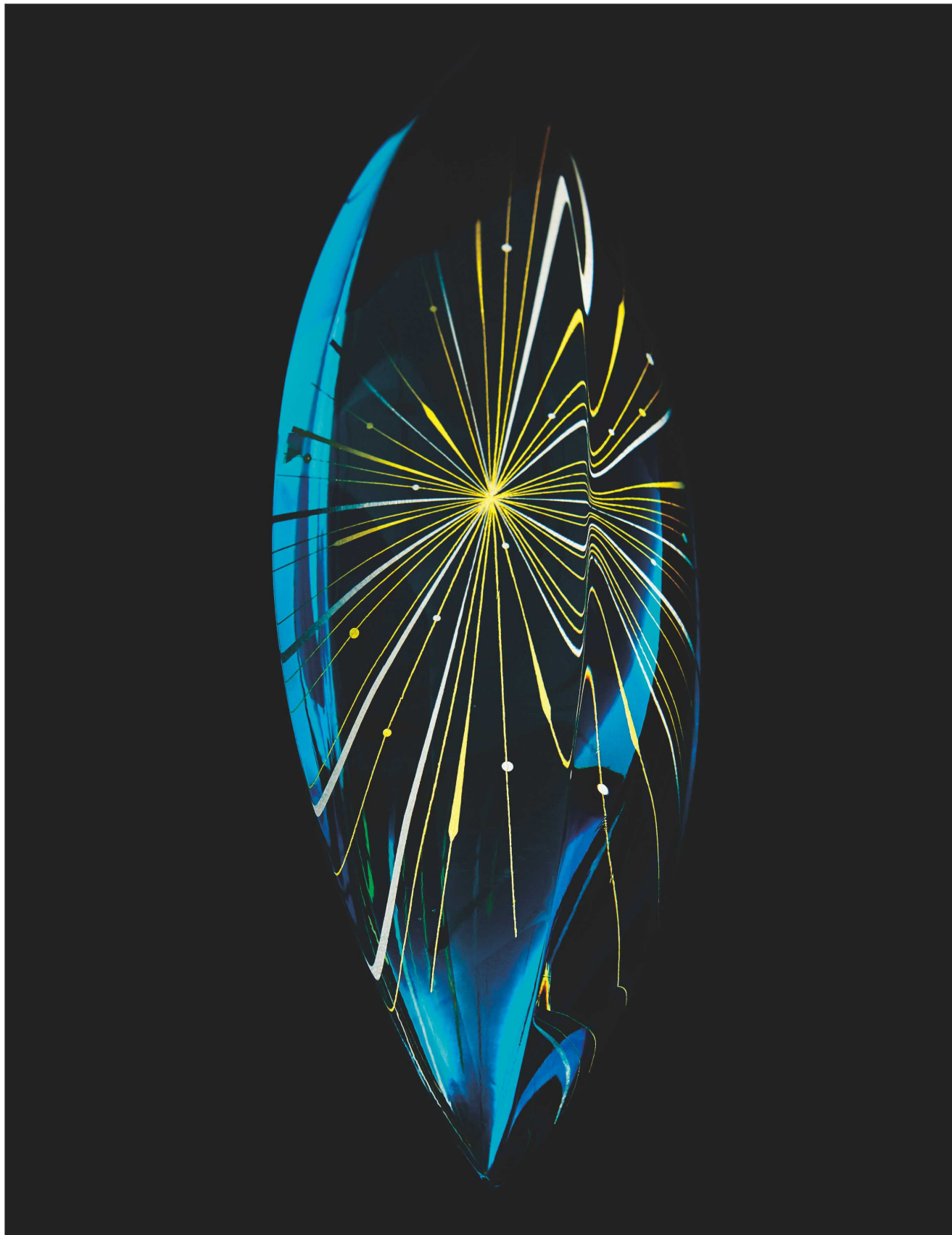
星まんだら（北極星）

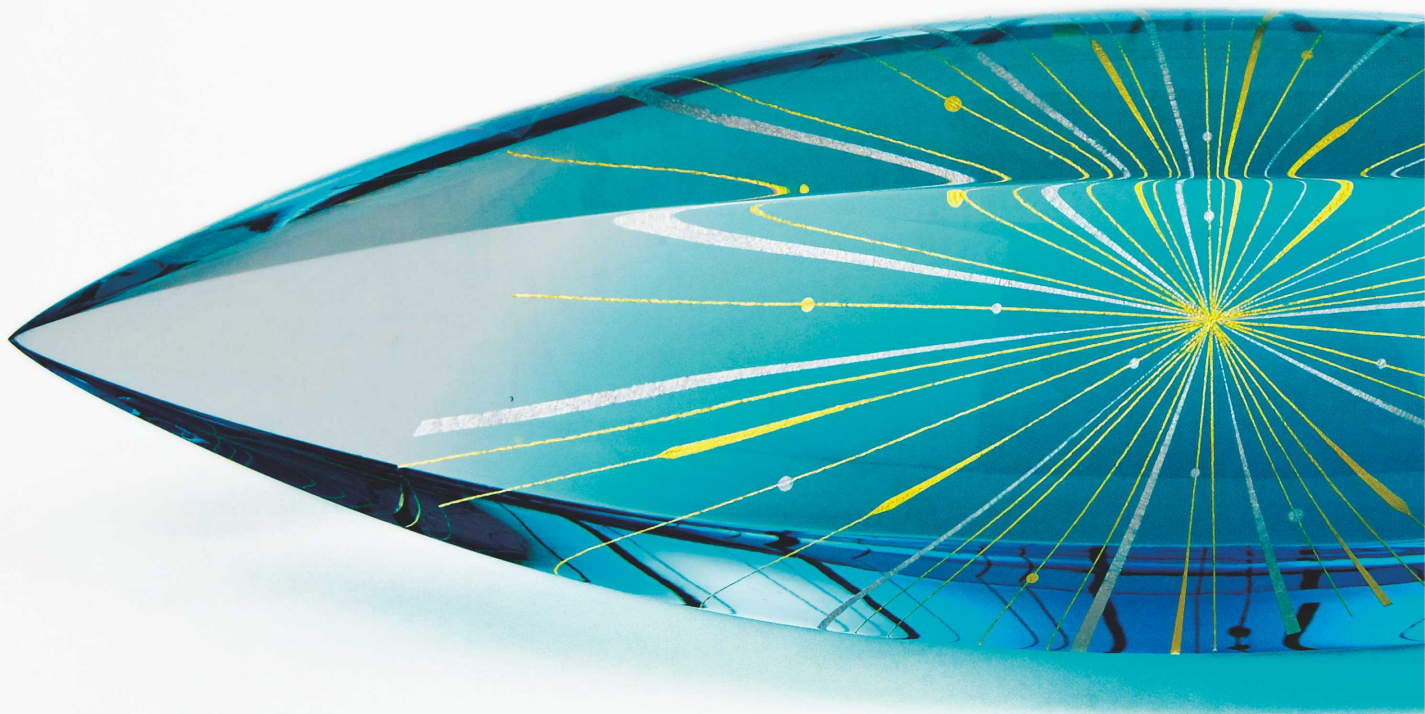




星まんだら（黄道十二宮）

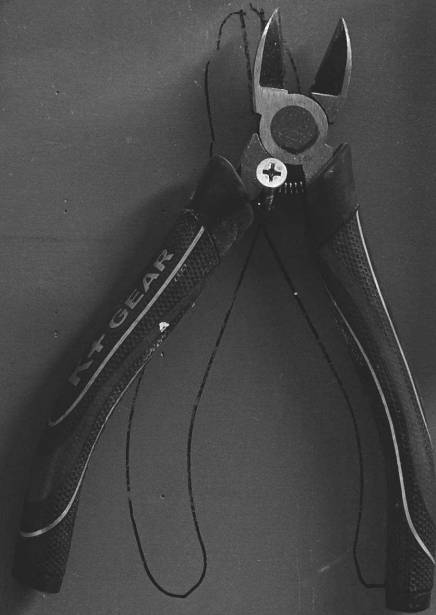
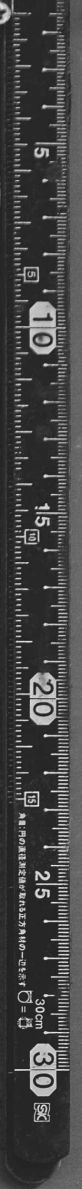
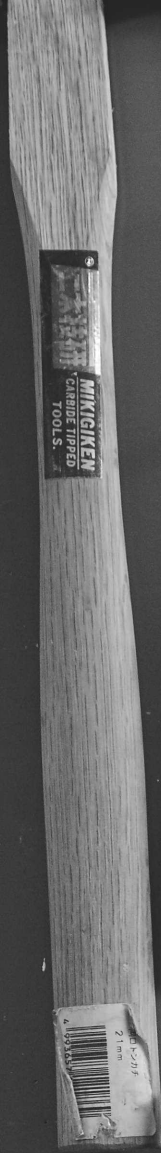
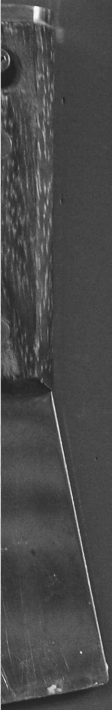














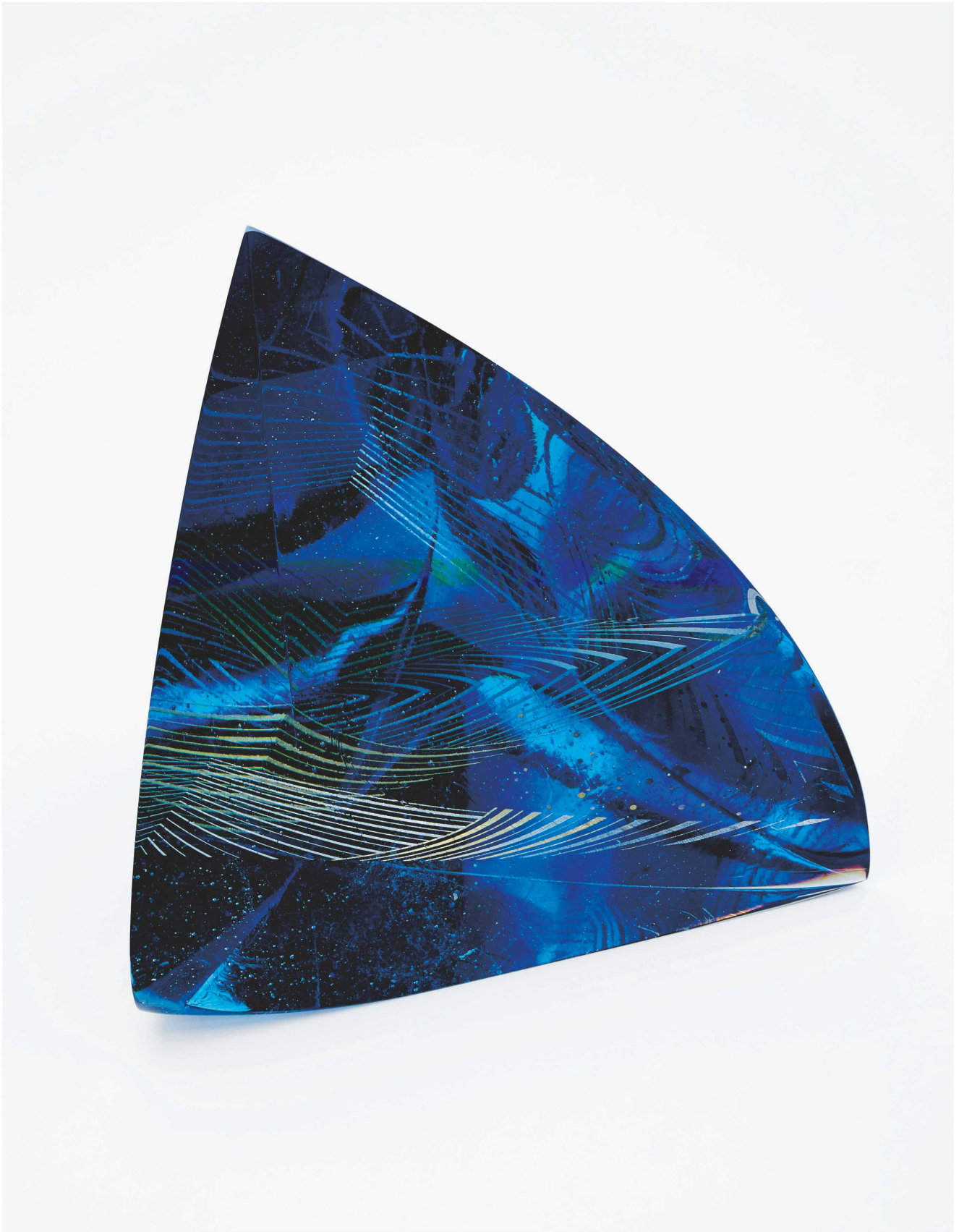


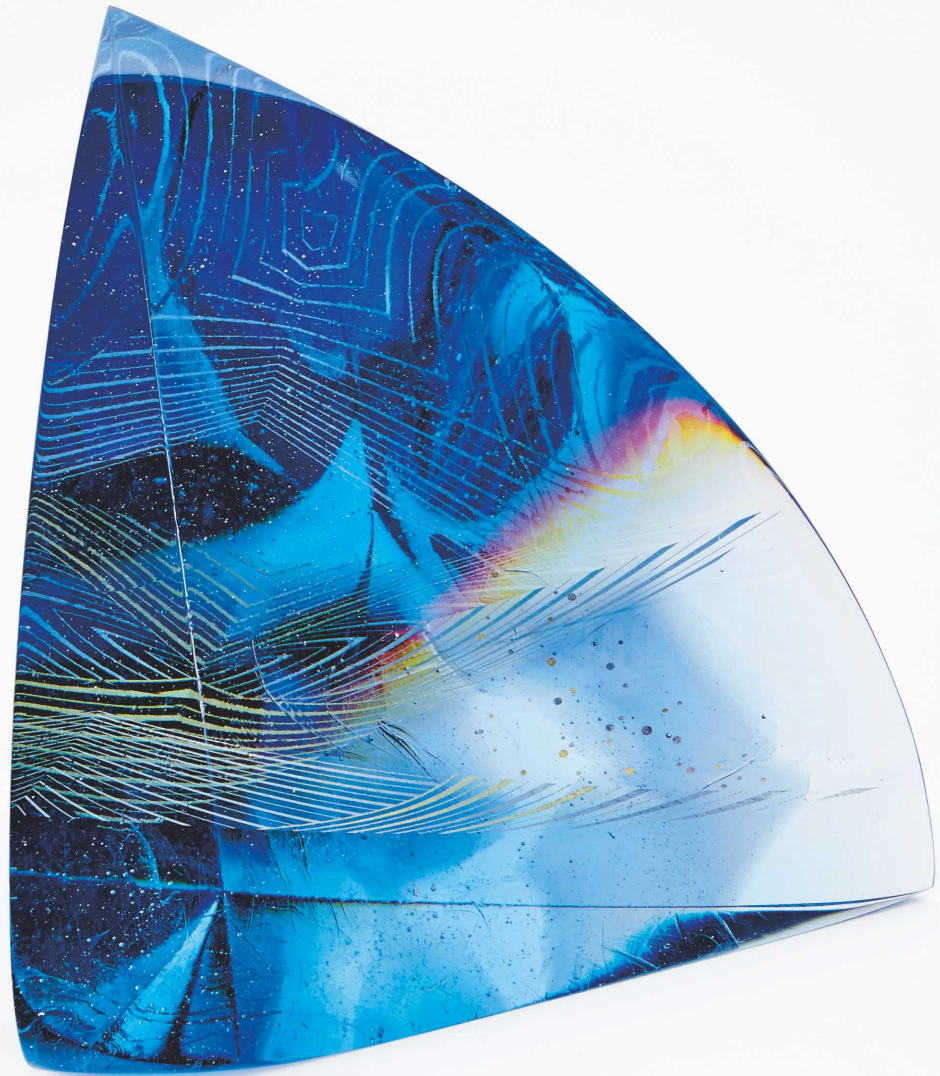


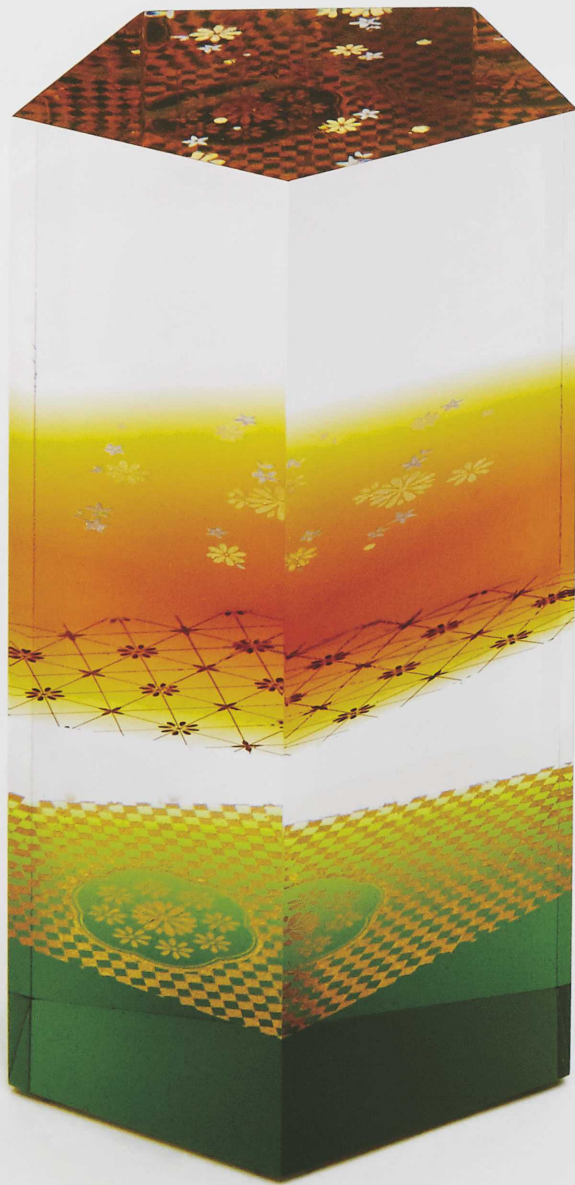


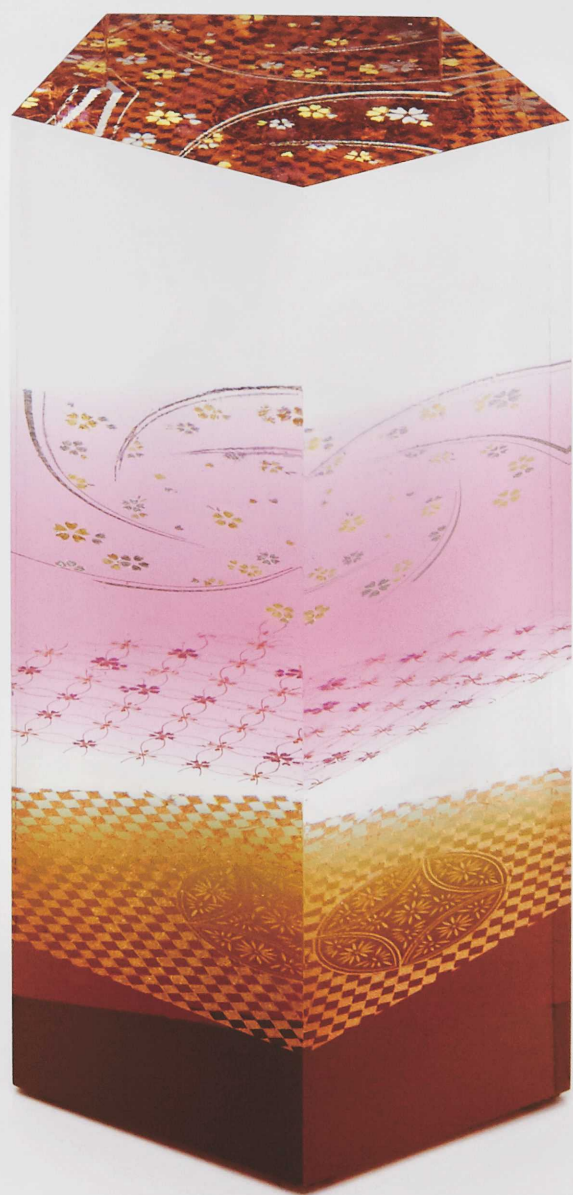
羽化 (カゲロウ)



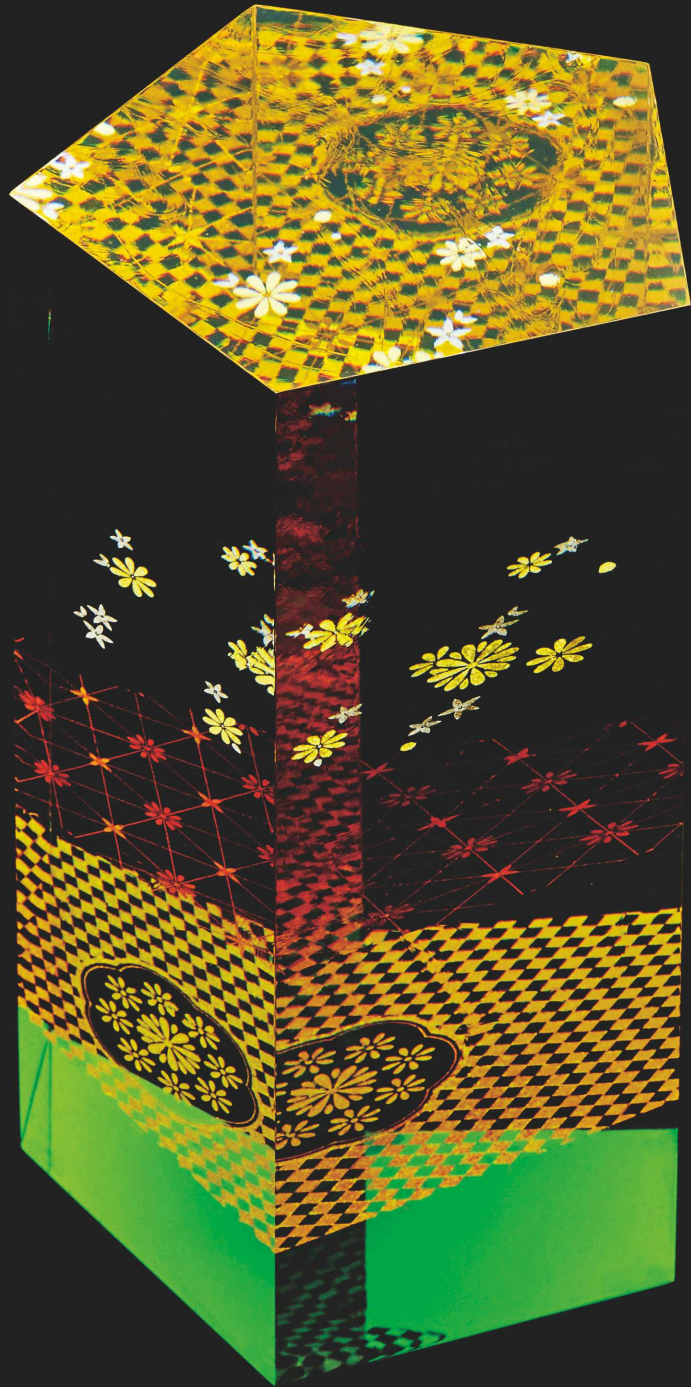




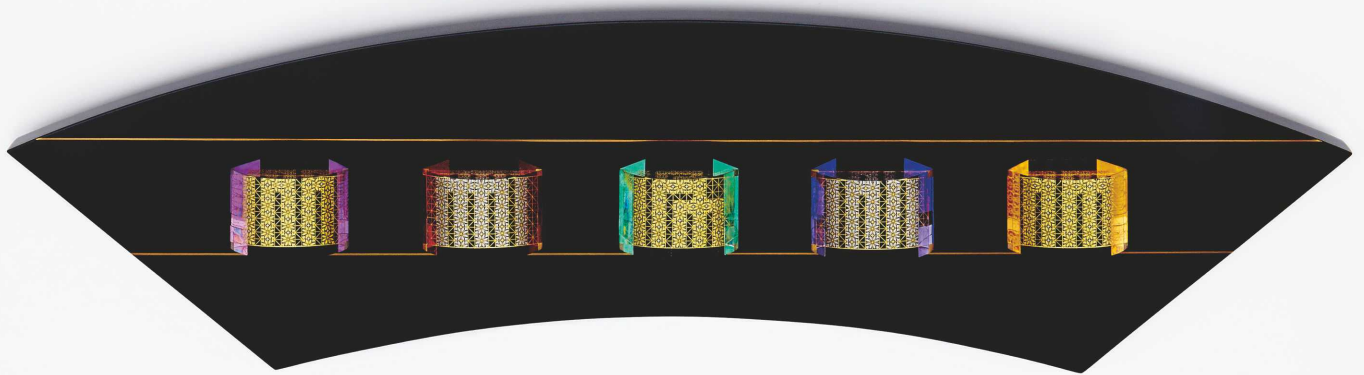




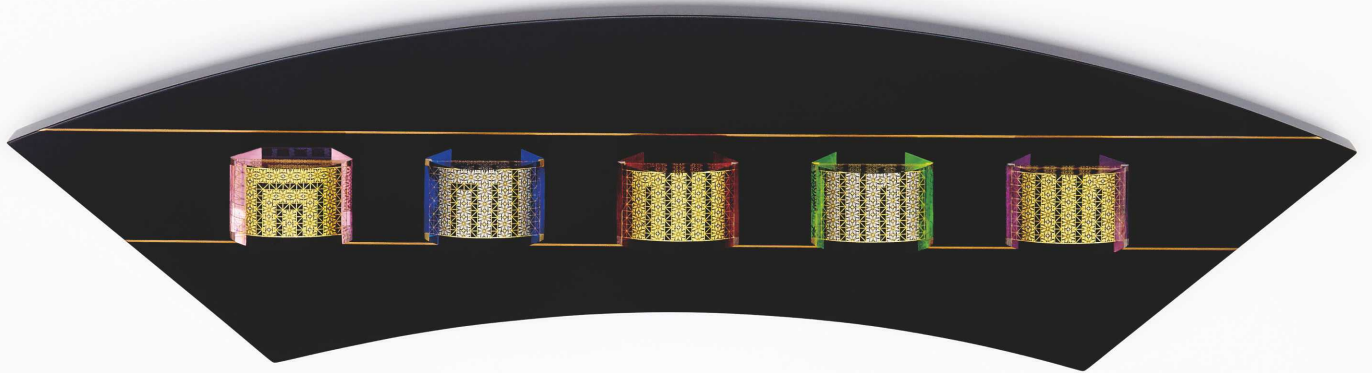
右近橘 左近桜







源氏香図壁飾り「女君たち」(若紫・末摘花・花散里・明石・玉鬘)



源氏香函壁飾り「女君たち」(真木柱・朝顔・葵・夕顔・空蝉)





自由を手に入れた金のカケラたち

—— 山本 茜と截金ガラス

前崎信也

京都女子大学准教授
(学術博士・ロンドン大学)

© The Trustees of the British Museum



図1 《金箔サンドイッチガラス碗》
制作年 紀元前 250 年頃
制作地 アレキサンドリア
出土地 イタリア、カノーザ・ディ・プーリア
サイズ 高 11.4 cm × 口径 20.3 cm

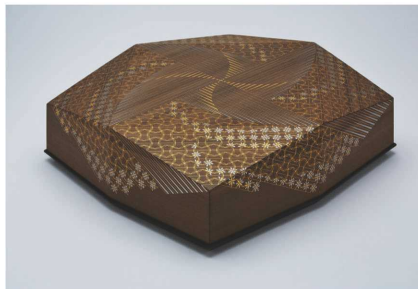


図2 山本茜作《截金飾色紙箱「野分」》
制作年 2009年
サイズ 高 9.8 cm × 幅 28.4 cm × 奥行 31.8 cm

北山杉の森

白く、細く、まっすぐに伸びた北山杉の森。京都市の中心から北西に向かって山道を車で約1時間進む。すこし開けた谷に流れる小川のほとり。そこに山本茜の工房がある。右の大きな建物がガラス工房、左のログハウスは截金工房と住居。制作の全てがここで完結し、生活のすべてが制作のためにある。そんな場所だ。

截金とガラスを融合させる方法は山本がいちから編みだしたものである。工芸史の観点から言えば、紀元前3世紀頃に地中海で制作されたサンドイッチ・ガラスに近い(図1)。しかし、現代において、精巧な截金をガラスで挟む技術を持っているのは彼女だけ。広い世界の中で唯一、この場所だけで生み出すことができるもの。それがこの「截金ガラス」なのである。

金魚と水槽

山本の一日は截金から始まる。竹刀を使い金箔を様々なかたちに切り出す。細く、小さく、薄い金のかげら。ほんの少しだけ膠を入れた水を含んだ筆を使い、ガラスの上に複雑な文様を載せていく。約7時間、集中力が揺らぐまでこの作業は続く。

聞こえるのは裏山に時折響く鳥や獣の鳴声。5匹の金魚が優雅に泳ぐふたつの水槽の水の音。「あと、キツキが家の壁に穴を開けようとする」と、突然、トトトトって大きな音がするんです」とは、この工房の主の談。

截金とガラス

2000年から約10年の間、山本は截金作家として活動していた。古代より仏像や仏画を金箔で飾るために使われてきた截金。戦後は工芸の一分野にもなり現在まで続いている。大学で古画に触れたことがきっかけでそれを知り、その美しさと面白さに没頭した。

截金作家としての仕事は、金箔を木工品の表面に貼ることで終わる。技術を高めて截金の精度を上げ、テーマに沿って文様を組立て、新しい表現を生み出す。そうして、木箱の表面をいかに飾るかということが制作の中心にあった(図2)。しかし、截金ガラス作家の仕事はそれとは全く違う。過去、あれほど難しかった截金。それよりも更に難しい「ガラスの中に截金を浮かべる」という作業がここから始まるからである。

力尽きるまで

截金の仕事を終え、金魚の世話をしたあと、隣の工房に移動する。截金をしたガラスの上に平らに磨いたガラスをのせ、電気炉の中で融合させる。温度が高すぎると金箔が動き文様が壊れてしまう。一度でも失敗すればその作品はそこで終わり。作品によっては10回以上もこの作業を繰り返し、ひとつの大きなガラスの塊をつくりあげる。

次に、このガラスの塊を成形するが、この工程にはとにかく時間がかかる。不要な部分を切り落とした後、回

転するホイールに作品を押し当て、曲面や鋭角を研ぎ出していく。少しずつ、少しずつ、慎重に削り出されていくかたち。そのガラスを支える白く華奢な腕。手の握力がなくなり、震えて物を持ってなくなった時、一日の仕事が終わる。

装飾からの解放

木工品の表面を飾るという截金の本分から離れ、新しい広がりを生むこと。そのために山本が導き出した答えが、透明なガラスで挟むということだった。いちからガラスを学び、試行錯誤を繰り返し、現在の技法によりやくとどり着いた。その時確信したのは、自分の選択が正しかったということである。

ガラスの壁に截金が映り、実際には存在しないものが現れる。見る角度や方向を変えることによりさまざまな景色を見せる。光の種類を電球から太陽光にかえても表情を変える。平面が立体になっただけではない。その立体は反射と屈折をくりかえし無限の広がりをみせた。こうして山本は截金を「装飾」という名の呪縛から解放することに成功したのである。

ガラスの中で自由を手にした金のカケラたち。私はそこに春の冷たい風を見る。あなたはそこに何を見るのだろうか。



截金ガラスに魅せられて

ガラスは生き物だと、つくづく思います。

電気炉の中で刻一刻と表情を変え、素材、色、大きさ、形でも性質が変わるやっかいもの。繊細な截金の文様を崩さないよう、新しい作品に挑戦するたびに試行錯誤を繰り返します。溶着が上手くいかずに、丹誠込めて施した截金の文様が無惨にもちぎれ、絶望することも少なくありません。そんな時はトーマス・エジソンの「失敗ではない。上手くいかない方法を見つけただけだ」という名言を支えに、「新しいデータを手に入れたんだ」と、心を切り替えてチャレンジを続けてきました。

年間の窯入れ回数は約250回。過去5年で積み上げたデータは1000以上。それも新作の挑戦時にはそれほど参考にはなりません。どうすれば截金という“異物”を、ガラスがその体内に受け入れてくれるのか。日々ガラスと対話し、対立し、格闘は続きます。

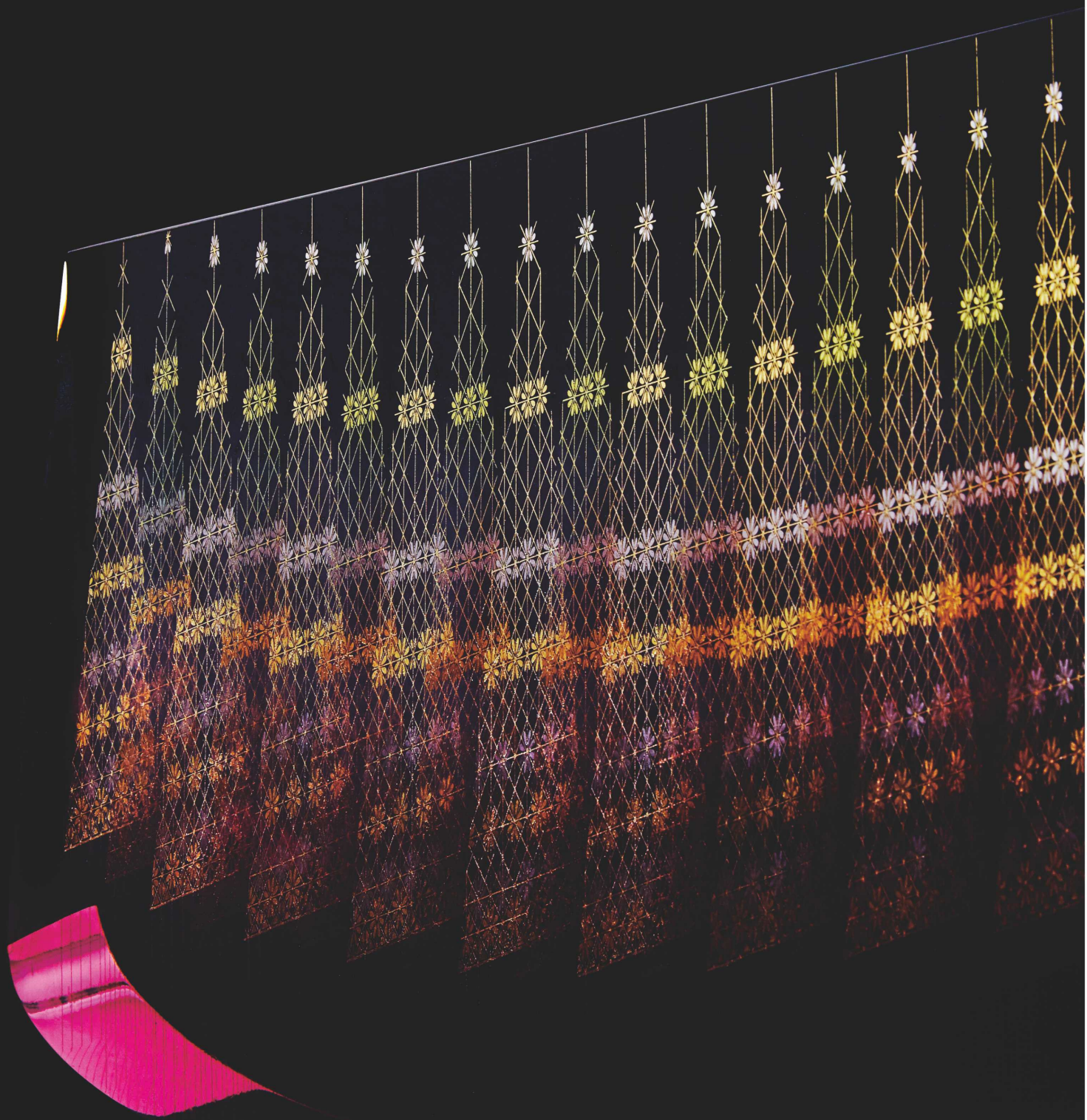
截金の封入まで、ようやくたどりついたガラスを削り、磨く。

表面を磨き切るとガラスは鏡のようになり、まるで万華鏡のように截金がガラスの内面に映り込みます。突如、ガラスの中の截金が踊り出すような錯覚を覚える、その瞬間の感動は言葉になりません。時に映り込みは予想を超え、想像をはるかに超えた作品ができることもあります。そこからまた新しいイメージが泉のように溢れだします。その時、厳しかった完成までの道のりは過去のものとなり、次の創作意欲が強く、強く、心の内側で蠢き始めるのです。

私を苦しめるガラスは、一方で私を魅了してやみません。

だからまたガラスを溶かし、私は作り続けるのです。

山本 茜



On the inspiration of my work

— the “farewell comb” from “Sakaki (The Sacred Tree)”, Chapter 10 of The Tale of Genji

Akane Yamamoto

My work is inspired by Japanese nature and classical literature. I am particularly dedicated to creating works from the 54 chapters of The Tale of Genji. So far, I have created 20 pieces for this series, with the current piece being the 21st.

The Tale of Genji, known as the world’s oldest novel, was written about one thousand years ago. It is one of the representative literary works of Japan, written at a time when Japanese culture was ripening and *kirikane* was at its peak. There is nothing more fitting for a *kirikane* artist like myself than elements from this novel. The dramatic themes allow me to choose the glass colour accordingly and create new glass shapes with *kirikane* sealed inside.

How does one transform the 54 chapters of The Tale of Genji into *kirikane* glass works? I already have ideas and have started working from chapters for which I am able to create using the skills I already possess, before moving on to the more difficult chapters. I am polishing my skills as I challenge myself and overcome the difficulties along the way. It is through this way of expanding my skills that I

am able to attain freedom for new expressions. To a *kirikane* artist such as myself, The Tale of Genji is like a mentor.

This piece is based on the “farewell comb” described in “Sakaki”, Chapter 10 of The Tale of Genji, when the Mikado farewells a lady to be dispatched to serve in a certain region of Japan by placing a comb in her front hair.

This piece was created with *kirikane* made using gold and platinum inside a piece of glass. It is shaped to look like a Japanese comb to represent the colour of the sunset in Kyoto and the subtle blending of the remaining light along mountain tops into the sky that the lady in this chapter must have seen before she departed from the capital. I used four new techniques to ensure that the final work is close to what I had in mind. It took three years of trials and errors to improve these techniques and finish this piece.

The challenge to create works using *kirikane* and glass continues as I try to transform my image of all 54 chapters of The Tale of Genji into shapes.

Freed Fragments of Gold

— Akane Yamamoto and *kirikane* glass

Shinya Maezaki

Associate Professor, Kyoto Women's University
(PhD in History of Art, University of London)

Kitayama cedar forest

Akane Yamamoto's workshop is located by a stream flowing down a narrow valley in a forest of white, slender, soaring Kitayama cedars. From the centre of Kyoto city it takes about one hour by car to get to the workshop, going northwesterly through mountain roads. The larger building to the right is her glass workshop, and to the left is a log house that functions as her *kirikane* workshop and residence. All her works are created and finished here — this is where she dedicates her life to the making of *kirikane* and glassware.

Yamamoto came up with the method of combining *kirikane* and glass from scratch, a method that, from the viewpoint of craft history, closely resembles the gold sandwich glass produced in the Mediterranean around the third century BC. (Fig.1) Despite such history, today she is the only artist skilled in sandwiching intricate cut gold leaf design between glass. *kirikane* glass works are made only in her workshop and they are unique in the whole world.

Goldfish and fish tanks

Yamamoto's daily routine begins with *kirikane*. First, she uses a bamboo blade to cut out various shapes out of gold leaf — tiny, detailed, thin fragments of gold. Then, using a brush dampened

with water that contains just a little amount of glue, she places intricate patterns using the gold fragments over glass. This process which requires full concentration lasts about seven hours.

While she concentrates, only the occasional echoing sounds of birds and animals coming from the mountains behind the workshop can be heard. That and the sound of the water in the two fish tanks where she keeps five goldfish that swim gracefully. "And then there is the sudden loud sound of a woodpecker trying to open a hole in my house wall," she tells us.

Kirikane and glass

From year 2000 Yamamoto worked as a *kirikane* artist for about a decade. *kirikane* is the ancient art of decorating Buddhist statues and paintings using gold leaf. Having become a craft after WWII, the art of *kirikane* continues to thrive today. Yamamoto first learnt about *kirikane* at university through studying about ancient paintings and has since then immersed herself in the beauty and its interesting aspects.

The work of a *kirikane* artist ends when gold leaf design is placed over the surface of a piece of woodcraft. New artistic expressions through patterns tailored to thematic designs have hitherto been created by improving the technique to make more



Fig.1 Gold sandwich glass bowl
Circa 250BC
Production place: Alexandria
Excavated: Canosa di Puglia, Italy
H:11.4cm × D:20.3 cm

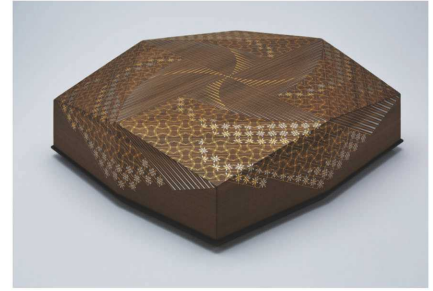


Fig.2 Akane Yamamoto
Autumn Storm
2009
H:9.8cm × W:28.4cm × D:31.8cm

detailed *kirikane*. This was once the mainstream idea in the decorating of the outer layer of wooden boxes. (Fig.2)

The work of a *kirikane* glass artist, however, is completely different. *kirikane* may have been a difficult craft to achieve in the past, the task of “making *kirikane* float within glass” is even more difficult.

Energy-exhausting work

Once the *kirikane* is done and after she has checked on her goldfish, Yamamoto then moves to the workshop next door. Here, she places a polished piece of glass on top of the piece of glass already set with *kirikane*, and fuses the two pieces of glass together inside an electric kiln. The gold leaves move if it gets too hot inside the kiln and this can ruin the desired *kirikane* design. If this happens the entire piece of work is no good any more. Depending on the piece of work, it may require over ten repetitions of this fusing process to create the final, single large block of glass.

The next step is shaping this block of glass, a process that requires a long time to complete. After trimming off unwanted sections, the glass is placed on a spinning wheel to polish out curves and sharp corners. The glass is carefully shaped this way bit by bit, held in place by her delicate fair-skinned hands.

Her day of work ends when she has exhausted her energy and her hands can no longer hold the glass in place.

Freeing kirikane from decoration

To depart from the original purpose of *kirikane* which was to decorate the surface of woodcraft pieces and to create new possibilities. Yamamoto found her solution in sandwiching *kirikane* between pieces of transparent glass. By learning about glass making from scratch and through trials and errors, she finally reached the current techniques she is using; and she knew she had made the right choice.

Her *kirikane* glass designs produce reflections on glass walls of images that are actually not existent. Different reflections are created according to the viewing angle and direction, or even the type of lighting such as that from a light bulb and natural sunlight. Not only does a two-dimensional design become three-dimensional, the now three-dimensional pattern expands infinitely through repeated reflections and refractions. It is in this way that Yamamoto has successfully freed *kirikane* from the spell of “decoration”.

Fragments of gold that have been freed — I see chilly breeze of spring from this. I wonder what you see.



My fascination with *kirikane* glass

I often ponder and think that glass is a living thing.

Glass is a material that is difficult to work with, as its colour, size, shape and other aspects can change every second in the electric kiln. It requires a great amount of trial and error to create a new piece of work without destroying the delicate *kirikane* design inside. I have fallen into despair many times when pieces of glass I have been working on fail to fuse properly and the *kirikane* design I have painstakingly placed is ruined as a result. Whenever this happens, the words of Thomas Edison (1847-1931): “I have not failed. I’ve just found 10,000 ways that won’t work.” offer consolation and help me to see that “I have just obtained new data” and reset my mind to continue with my challenge.

I put glass pieces into the kiln about 250 times a year and over the past five years I have accumulated a data of over 1000 records of what I have done. Nevertheless, not much of that can be used for reference when I create new pieces. How can this “foreign object” called *kirikane* be accepted inside a glass body? Everyday I confront, talk to and fight with glass.

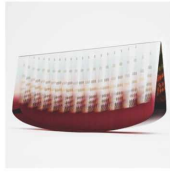
Once the *kirikane* is finally sealed inside the glass, I cut and polish the glass.

When cut and polished, the surface becomes like a mirror and the *kirikane* is reflected inside the glass like a kaleidoscope. You get the illusion that the *kirikane* inside is popping out, and that thrilling moment cannot be expressed in words. Sometimes, the reflections of the *kirikane* resulted from my creations exceed far beyond my expectations and new ideas come flowing out of that like a spring. When this happens, all the tough steps leading up to the finishing of the piece become the past, and a strong desire to create the next piece begins to wriggle in my mind.

The glass that tortures me also fascinates me.

And so I will continue to melt glass and create *kirikane* glass.

Akane Yamamoto



源氏物語シリーズ 第十帖「賢木」余話（別れのお櫛）

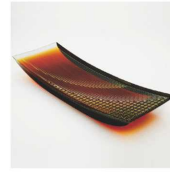
高 23.5 × 幅 50.0 × 奥行 8.7cm

截金（金箔・プラチナ箔）・キャスト・溶着・研磨

The "farewell comb" from "Sakaki (The Sacred Tree)", Chapter 10 of The Tale of Genji

H:23.5 × W:50.0 × D:8.7cm

Gold, Platinum and Glass



截金硝子長方皿「竜田川」

高 5.7 × 幅 39.4 × 奥行 14.2cm

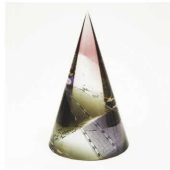
截金（金箔・プラチナ箔）・キャスト・溶着・スランプ・研磨

第45回日本伝統工芸近畿展

Kirikane Glass Rectangular Plate "Tatsuta River"

H:5.7 × W:39.4 × D:14.2cm

Gold, Platinum and Glass



源氏物語シリーズ 第二十五帖「螢」

高 26.5 × 直径 15.2cm

截金（金箔・プラチナ箔）・キャスト・溶着・研磨

「美術でたどる物語」展（高崎市タワー美術館）

The "Fire fly", Chapter 25 of The Tale of Genji

H:26.5 × D:15.2cm

Gold, Platinum and Glass



羽化（蝶）

高 19.5 × 幅 26.0 × 奥行 6.7cm

截金（金箔・プラチナ箔）・キャスト・溶着・研磨

Emergence "Butterfly"

H:19.5 × W:26.0 × D:6.7cm

Gold, Platinum and Glass



琳派400年記念「風神雷神」

高 19.3 × 幅 30.0 × 奥行 13.2cm

截金（金箔・プラチナ箔）・キャスト・溶着・研磨

新鋭選抜展－琳派 FOREVER－展 優秀賞

Wind God and Thunder God, Celebrating 400 years of the Rimpa School of Japanese Painting

H:19.3 × W:30.0 × D:13.2cm

Gold, Platinum and Glass



勇氣

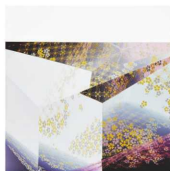
高 5.9 × 幅 23.5 × 奥行 6.2cm

截金（金箔・プラチナ箔）・キャスト・溶着・研磨/クリスタルガラス

Courage

H:5.9 × W:23.5 × D:6.2cm

Gold, Platinum and Crystal Glass



伊勢物語「渚の院」

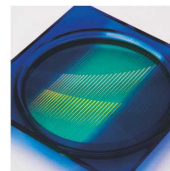
高 11.0 × 幅 21.0 × 奥行 9.0cm

截金（金箔・プラチナ箔）・キャスト・溶着・研磨

"Nagisa-no-in", The Tale of Ise

H:11.0 × W:21.0 × D:9.0cm

Gold, Platinum and Glass



截金硝子菓子器「円窓」

高 3.8 × 幅 21.7 × 奥行 21.7cm

截金（金箔・プラチナ箔）・キャスト・溶着・研磨

Kirikane Glass Sweets Plate "Enso"

H:3.8 × W:21.7 × D:21.7cm

Gold, Platinum and Glass



截金硝子香合「無我」

高 6.1 × 幅 6.2 × 奥行 6.0cm

截金（金箔・プラチナ箔）・キャスト・溶着・研磨

Kirikane Glass Incense box "Selflessness"

H:6.1 × W:6.2 × D:6.0cm

Gold, Platinum and Glass



茶杓 仕覆（裂地：土屋順紀 仕立：後藤絹代）

高 1.9 × 幅 1.0 × 奥行 18.5cm

截金（金箔・プラチナ箔）・キャスト・溶着・研磨

「現代工芸の数寄 和美・茶美展」(染・清流館)

Tea Scoop

(Shifuku(drawstring bag): Textile by Yoshinori Tsuchiya; Stitching by Kinuyo Goto)

H:1.9 × W:1.0 × D:18.5cm

Gold, Platinum and Glass



源泉

高 21.0 × 幅 12.0 × 奥行 5.7cm

截金（金箔・プラチナ箔）・キャスト・溶着・研磨

Fountain

H:21.0 × W:12.0 × D:5.7cm

Gold, Platinum and Glass



截金硝子掛花「光華」

縦 65.0 × 横 9.0 × 奥行 6.6cm

截金（金箔・プラチナ箔）・キャスト・溶着・研磨/木材（チーク）拭漆

Kirikane Glass Hanging Flower Vase

"Flower of Light"

H:65.0 × W:9.0 × D:6.6cm

Gold, Platinum and Glass

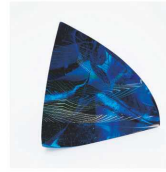


花繋ぎ

直径 10.0cm
截金 (金箔・プラチナ箔)・キャスト・溶着・研磨

Arabesque floral

D:10.0cm
Gold, Platinum and Glass

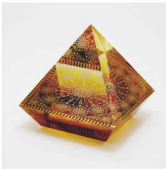


浪

高16.5×幅13.4×奥行8.4cm
截金 (金箔・プラチナ箔)・キャスト・溶着・スランプ・研磨 / クリスタルガラス

Wave

H:16.5×W:13.4×D:8.4cm
Gold, Platinum and Glass



星まんだら (北極星)

高 12.5×幅 12.5×奥行 12.5cm
截金 (金箔・プラチナ箔)・キャスト・溶着・研磨 / クリスタルガラス

Stellar Mandala "Polaris"

H:12.5×W:12.5×D:12.5cm
Gold, Platinum and Crystal Glass



右近橋

高 14.5×幅 8.0×奥行 7.5cm
截金 (金箔・プラチナ箔)・キャスト・溶着・研磨 / クリスタルガラス

Ukon-no-Tachibana

H:14.5×W:8.0×D:7.5cm
Gold, Platinum and Glass



星まんだら (黄道十二宮)

高 12.5×幅 12.5×奥行 12.5cm
截金 (金箔・プラチナ箔)・キャスト・溶着・研磨 / クリスタルガラス

Stellar Mandala "Twelve Signs of the Zodiac"

H:12.5×W:12.5×D:12.5cm
Gold, Platinum and Crystal Glass

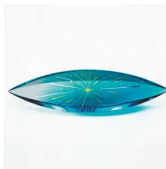


左近桜

高 14.5×幅 8.0×奥行 7.5cm
截金 (金箔・プラチナ箔)・キャスト・溶着・研磨 / クリスタルガラス

Sakon-no-Sakura

H:14.5×W:8.0×D:7.5cm
Gold, Platinum and Glass



信念

高 5.7×幅 24.0×奥行 6.0cm
截金 (金箔・プラチナ箔)・キャスト・溶着・研磨

Faith

H:5.7×W:24.0×D:6.0cm
Gold, Platinum and Glass



源氏香図壁飾り「女君たち」 (若紫・末摘花・花散里・明石・玉鬘)

縦 21.0×横 77.0×奥行 6.8cm
截金 (金箔・プラチナ箔)・キャスト・溶着・研磨 / クリスタルガラス / 木材 (桑)・漆・蒔絵

Genji-kō Wall plaque "Ladies"

H:21.0×W:77.0×D:6.8cm
Gold, Platinum, Glass, mulberry wood and maki-e lacquer



泉

高 9.0×直径 21.0cm
截金 (金箔・プラチナ箔)・キャスト・溶着・研磨

Natural Spring

H:9.0×D:21.0cm
Gold, Platinum and Glass



源氏香図壁飾り「女君たち」 (真木柱・朝顔・葵・夕顔・空蟬)

縦 21.0×横 77.0×奥行 6.8cm
截金 (金箔・プラチナ箔)・キャスト・溶着・研磨 / クリスタルガラス / 木材 (桑)・漆・蒔絵

Genji-kō Wall plaque "Ladies"

H:21.0×W:77.0×D:6.8cm
Gold, Platinum, Glass, mulberry wood and maki-e lacquer



羽化 (カゲロウ)

高 12.5×幅 24.1×奥行 6.4cm
截金 (金箔・プラチナ箔)・キャスト・溶着・研磨

Emergence "Mayfly"

H:12.5×W:24.1×D:6.4cm
Gold, Platinum and Glass

山本 茜 経歴

1977年	石川県金沢市生まれ
1999年	独学で截金を始める
2000年	重要無形文化財「截金」保持者、江里佐代子氏より伝統的截金技法を教わる
2001年	京都市立芸術大学美術学部美術科日本画（模写・水墨画）専攻卒業
2002～07年	京都造形芸術大学非常勤講師
2009年	富山ガラス造形研究所造形科入学
2011年	富山ガラス造形研究所造形科卒業 京都市に個人工房設立
2013年	公益社団法人日本工芸会正会員認定
2014年	石川県立美術館にて截金のワークショップ開催
2015年	パナソニック汐留ミュージアムにて截金のワークショップ開催

展覧会

2008年	第37回日本伝統工芸近畿展 第55回日本伝統工芸展
2009年	第38回日本伝統工芸近畿展
2010年	京都工芸ビエンナーレ（招待出品） 第57回日本伝統工芸展 越中アートフェスタ2010
2011年	第40回日本伝統工芸近畿展（以降毎年） 第23回伝統工芸諸工芸部会展 京展（京都市美術館） 第4回現代ガラス大賞展・富山2011 第58回日本伝統工芸展 第6回雪のデザイン賞（中谷宇吉郎雪の科学館）
2012年	第5回現代ガラス展 in 山陽小野田 「雪と氷」展（群馬県立館林美術館）
2013年	富山市新収蔵ガラス作品展 CRIA 展（京都芸術センター） 第24回伝統工芸諸工芸部会展 京展（京都市美術館） 第60回日本伝統工芸展 国際ガラス展・金沢2013
2014年	TEFAF（オランダ・マーストリヒト） COLLECT（ロンドン） MASTERPIECE（ロンドン） Pavilion of Art & Design London 第61回日本伝統工芸展 「融合する工芸—出合いがみちびく伝統のミライ—」（和光ホール） 「日本家屋にみる至宝の響宴—しつらえの美—」（楽翠亭美術館）
2015年	「美術でたどる物語」展（高崎市タワー美術館） 「現代工芸の数寄 和美・茶美展」（染・清流館） ルーツは「やまと絵」展（佐野市立吉澤記念美術館） TEFAF（オランダ・マーストリヒト） MASTERPIECE（ロンドン） Pavilion of Art & Design London
2016年	琳派400年記念 新鋭選抜展—琳派 FOREVER—展（京都府文化博物館） IKI 粹 SUI 展（染・清流館）

受賞

2009年	第38回日本伝統工芸近畿展 新人奨励賞
2011年	富山ガラス造形研究所卒業制作展 優秀作品賞 第40回日本伝統工芸近畿展 日本工芸会近畿支部長賞 第23回伝統工芸諸工芸部会展 朝日新聞社賞 第6回雪のデザイン賞 金賞
2013年	京都市芸術新人賞 国際ガラス展金沢2013 奨励賞 EWAAコンペティション（ロンドン）立体部門大賞
2014年	第61回日本伝統工芸展 NHK 会長賞
2015年	伝統文化ボーラ賞奨励賞
2016年	京都府文化賞奨励賞 琳派400年記念 新鋭選抜展—琳派 FOREVER—展 優秀賞

個展

2011年	ギャラリー NOW（富山市） 高島屋京都店 松屋銀座店
2013年	ギャラリー—銀座アルトン 高島屋大阪店 香林坊大和店
2015年	ギャラリー NOW 高島屋大阪店美術画廊

所蔵

宮内庁
富山市ガラス美術館
中谷宇吉郎雪の科学館

Akane Yamamoto Profile

- 1977 Born in Kanazawa City, Ishikawa Prefecture, Japan.
1996 Entered the Department of Fine Arts, Faculty of Fine Arts, Kyoto City University of Arts.
1999 Began self-studying of *kirikane*.
2000 Studied *kirikane* under Eri Sayoko, a holder of Important Intangible Cultural Property for her *kirikane* work.
2001 Graduated from the Nihonga Course at the Department of Fine Arts, Faculty of Fine Arts, Kyoto City University of Arts.
2002-07 Lecturer at Kyoto University of Arts and Design.
2009 Entered the Glass Certification Studies Program, Toyama City Institute of Glass Art.
2011 Graduated from the Glass Certification Studies Program, Toyama City Institute of Glass Art.
Opened an independent studio in Kyoto.
2013 Accepted as a member of the Japan Kōgei Association.
2014 *Kirikane* workshop at Ishikawa Prefectural Museum of Art.
2015 *Kirikane* workshop at Panasonic Shiodome Museum.

Exhibitions

- 2008 37th Japan Traditional Art Crafts Kinki Region Exhibition
55th Japan Traditional Art Crafts Exhibition
2009 38th Japan Traditional Art Crafts Kinki Region Exhibition
2010 Kyoto Art Craft Biennale (as guest artist)
57th Japan Traditional Art Crafts Exhibition
Ecchu Art Festival in Toyama 2010
2011 40th Japan Traditional Art Crafts Kinki Region Exhibition
(annual participation since)
23rd Japan Traditional Art Crafts -Shokougei Bukai- Exhibition
Kyoto Exhibition. Kyoto Municipal Museum of Art
4th Contemporary Glass Triennial in Toyama 2011
58th Japan Traditional Art Crafts Exhibition
6th Snow Design Competition
2012 5th Contemporary Glass Triennial in Onoda 2012
Exhibition: Snow and Ice, Gunma Museum of Art, Tatebayashi
2013 Toyama City New Acquisition Exhibition on Glass
CRIA Exhibition, Kyoto Art Center
24th Japan Traditional Art Crafts -Shokougei Bukai- Exhibition
Kyoto Exhibition, Kyoto Municipal Museum of Art
60th Japan Traditional Art Crafts Exhibition
International Exhibition of Glass Kanazawa 2013
2014 TEFA, Maastricht, Netherlands
COLLECT, London
MASTERPIECE, London
Pavilion of Art & Design London
61st Japan Traditional Art Crafts Exhibition
"Coalescent Kōgei: Future of Tradition through Encounters", Wako Hall, Tokyo
"Nihon Kaoku ni Miru Shihō no Kyōen: Shitsurae no bi
(Treasures in Japanese Houses: the Beauty of Installations)", Rakusuitei Museum
2015 "Bijutsu de Tadoru Monogatari (A Tale Told through Art)"
Takasaki Tower Museum of Art
"Gendai Kōgei no Suki — Wabi/Chabi (Contemporary Artistic Crafts:
the Aesthetics of Japan and Tea)" Exhibition, Somé Seiryukan, Kyoto
"Rūtsu wa Yamato-e (Yamato-e as the Origin)",
Yoshizawa Memorial Museum of Art, Sano
TEFAF, Maastricht, Netherlands
MASTERPIECE, London
Pavilion of Art & Design London
2016 400-year Commemoration of Rimpa Art: Selected Works by New Artists,
Rimpa Forever Exhibition, The Museum of Kyoto
IKI • SUI Exhibition, Somé Seiryukan, Kyoto

Awards

- 2009 New Comer Prize, 38th Japan Traditional Art Crafts
Kinki Region Exhibition
2011 Grand Prize, Graduation Exhibition of Toyama City Institute
of Glass Art
Japan Traditional Art Crafts Kinki Region Director Prize,
40th Japan Traditional Art Crafts Kinki Region Exhibition
Asahi Newspaper Prize, 23rd Japan Traditional Art Crafts
-Shokougei Bukai- Exhibition
Gold Prize, 6th Snow Design Competition
2013 Kyoto City New Artist Award
Honourable Mention, International Exhibition of
Glass Kanazawa 2013
Best Category Prize: 3D Category,
East-West Art Award Competition 2013, London
2014 NHK Chairman Prize, 61th Japan Traditional Art
Crafts Exhibition
2015 Special Award of Traditional Japanese Culture Pola Award
2016 Honourable Mention, Kyoto Prefecture Cultural Prize
Excellence Award, 400-year Commemoration of Rimpa Art:
Selected Works by New Artists, Rimpa Forever Exhibition

Solo Exhibitions

- 2011 Gallery NOW, Toyama
Takashimaya Kyoto Store, Kyoto
Matsuya Ginza Department Store, Tokyo
2013 Gallery Ginza ARTONE, Tokyo
Takashimaya Osaka Store, Osaka
Daiwa Kohrinbo, Kanazawa
2015 Gallery NOW, Toyama City
Art Gallery, Takashimaya Osaka Store

Public Collections

- Imperial Household Agency
Toyama Glass Art Museum
Nakaya Ukichiro Museum of Snow and Ice



今回の図録の構想を作者と話したのは一年以上前だ。
その時の漠然とした決まりごとは新しい作品が生まれる度に撮影をすることだけだった。

作品の撮影を重ねる度、山本氏は心の物語をも映像化したいと希望した。
それは、氏のアトリエや、公開したことのない制作途中の作品を撮るだけに留まらず、齋王が巡った古の旅の軌跡を記録することだった。

しかしながら写真に写るものは、一緒に巡った実際の場所よりも、史実や記録を調べ、その時代に想いを馳せ、幾度となくその地を一人で訪れて作品に想いを乗せる作者の執念だった。

一年以上かけて山本氏と一緒にカバンに乱暴に詰め込んだ記録(写真たち)を、丁寧に整理して本にしてくれた飯塚文子、田中敦子両氏には感謝の言葉もない。

作品達は完成し、齋王(図録)の旅も終わった。そしてまた新しい旅(作品)に向かう作者の未来を、今回の図録で想像してもらえたら嬉しい。

写真家 湊 忠之

截金ガラス—齋王の旅—
2016年5月25日発行

監修・撮影 湊 忠之 Creative Direction & Photography by Tadayuki Minamoto
作者 山本 茜 Kirikane glass by Akane Yamamoto
編集協力 田中敦子 Editorial Support by Atsuko Tanaka
デザイン 飯塚文子 Art Direction & Design by Ayako Iizuka

湊 忠之(湊忠之写真事務所主宰)

人物(ポートレート・ファッション)から、オブジェ(美術・工芸)、空間、建築、風景に至るまで幅広いジャンルの撮影対象を、光を捉える独自の技術を用いた存在感ある写真で表現。広告とエディトリアル双方で活動する写真家。演劇、工芸といった日本文化にも造詣が深く、アーティストPVなどの映像制作も行うなど、ボーダレスに活躍の場を広げる。

本書掲載の写真、文章の無断転載を禁じます。
©2016 Tadayuki Minamoto & Akane Yamamoto